

消防年報

平成24年版



島田市消防本部

目 次

記 載 項 目	ページ番号
総 務	
島田市及び川根本町の位置と概要	1
常備消防力配置図	2
島田市消防本部及び消防署の沿革	3～4
島田市消防本部・署組織機構	5
消防庁舎等の施設概要	5
消防力整備指針の基準数と現有数	6
平成 25 年度一般会計常備消防費等予算内訳	7
消防職員所属別配置状況	8
消防職員勤続年数及び年齢	9
消防職員研修状況	10
予 防	
防火対象物の数と立入検査実施状況	11
用途別建築同意件数	12
消防関係法令に基づく各種届出等の件数状況	12
予防指導実施件数状況	13
煙火消費許可件数	13
危険物製造所等現有数及び立入検査実施件数状況	13
広報啓蒙活動	14
幼年消防クラブの結成状況	15
火災統計	
火災概要	16～17
警 防	
消防水利	18
火災出動状況	19
消防活動状況	20
消防車両等の配備状況	21
消防資機材一覧表	22～23
通 信	
無線局現況	24

通 信	
島田市消防本部 119 番通報受信状況	25～26
救 助 ・ 救 急	
救助活動状況	27
救助隊員の訓練実施状況	27
最近 5 年間の救急概要	28
救急出場種別件数	28
時間別救急発生状況	29
曜日・月別救急出場件数	30
発生場所別搬送人員	31
管内・管外別搬送人員	31
応急手当普及啓発活動	31
救急隊員が行った応急処置件数	32
新東名高速道路における出場種別件数	32
消 防 団	
消防団の沿革	33～40
消防団組織機構	41
消防団員現勢	42
消防団員勤続年数	42
消防団出動区域	43～44
消防団車両配置状況	45～46

総務

島田市及び川根本町の位置と概要

平成 25 年 4 月 1 日現在

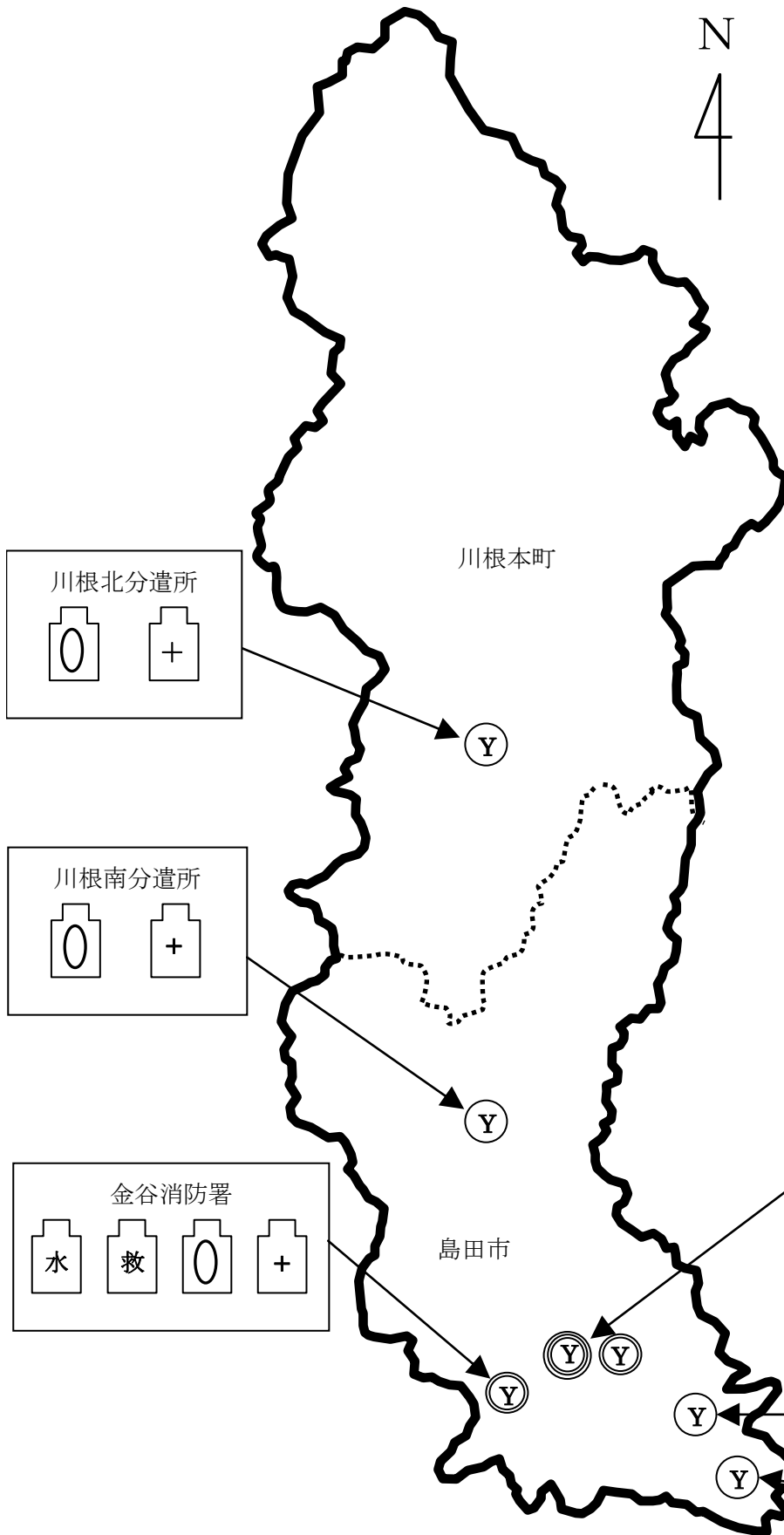


区分 市町別	面積 (k m ²)	人口 (人)	世帯数 (世帯)
島田市	315.88	101,693	35,945
川根本町	496.72	7,967	2,991
合計	812.60	109,660	38,936

常備消防力配置図

平成 25 年 4 月 1 日現在

凡 例	
⓪	消 防 本 部
Ⓜ	消 防 署
Ⓨ	分 遣 所
指	指揮車
⓪	消防ポンプ自動車
⓪	水槽付ポンプ自動車
水	消 防 水 槽 車
化	化学消防ポンプ自動車
+	救 急 自 動 車
救	救 助 工 作 車
梯	屈折梯子付 消防ポンプ自動車



島田市消防本部 島田消防署

指	⓪	水	化
救	梯	+	

六合分遣所

⓪	+
---	---

初倉分遣所

⓪	+
---	---

川根北分遣所

⓪	+
---	---

川根南分遣所

⓪	+
---	---

金谷消防署

水	救	⓪	+
---	---	---	---

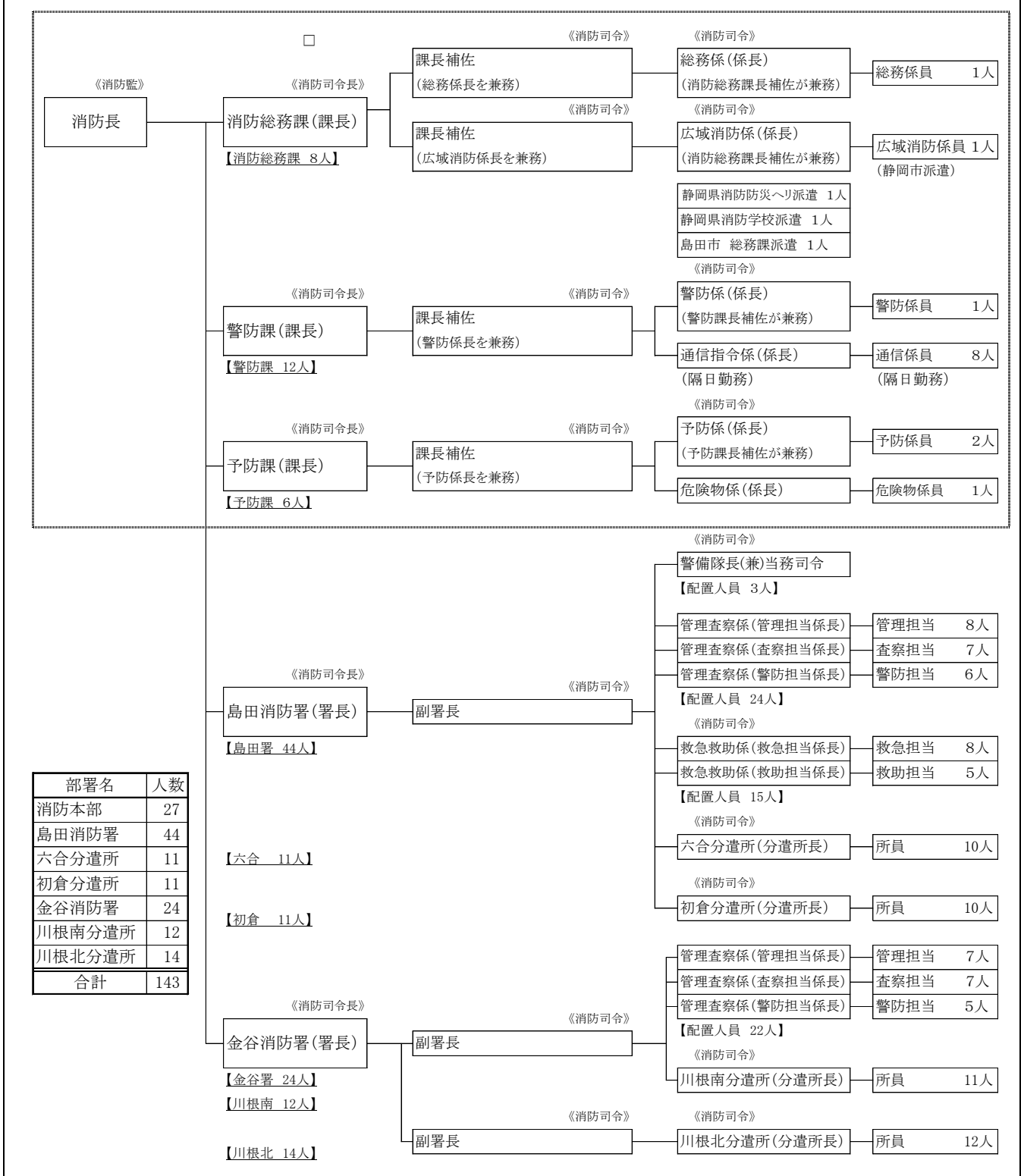
年 月	沿 革 事 項
昭和27年10月	島田市消防本部及び消防署を島田市本通り1丁目に設置し、職員16人水槽付消防ポンプ自動車1台を配置し発足する。
昭和40年3月	職員定数を42人に改正する。
昭和42年9月	消防法施行令の改正に伴い救急業務を開始する。
昭和43年8月	島田市中央町に消防庁舎を竣工し移転する。
昭和44年7月	島田市は金谷町の救急業務を事務委託により受託する。
11月	職員10人(兼務)をもって消防救助隊を編成する。
昭和46年4月	職員定数を48人に改正する。
昭和47年4月	職員定数を57人に改正し、島田市及び金谷町は組合消防を組織し、「島田市・金谷町消防組合(島田消防本部・島田消防署)」として発足する。また、六合分遣所庁舎を竣工し、職員12人及び消防ポンプ自動車・救急自動車各1台を配置する。
昭和48年4月	職員定数を75人に改正する。また、金谷分遣所庁舎を竣工し、職員15人及び消防ポンプ自動車・救急自動車各1台を配置する。
昭和49年4月	職員定数を80人に改正する。
昭和51年4月	島田市・金谷町清掃施設組合及び、島田市・金谷町し尿処理施設組合と合併し、「島田市・金谷町衛生消防組合(島田消防本部・島田消防署)」として発足する。
昭和52年6月	専任消防長を任命する。
昭和53年4月	職員定数85名に改正する。
8月	職員10人(兼務)をもって消防音楽隊(ラッパ隊)を編成する。
昭和54年2月	非常通報機(一斉指令装置)を導入する。
4月	職員定数を90人に改正する。
昭和55年4月	職員定数を93人に改正する。
昭和56年4月	初倉分遣所庁舎を竣工し、職員13人及び消防ポンプ自動車・救急自動車各1台を配置する。
昭和61年10月	島田消防署望楼を撤去する。
昭和62年6月	島田金谷幼年消防クラブを発足する。
平成元年4月	職員定数を97人に改正する。金谷分遣所を組織変更し消防署に改組、署員を21人に増員する。消防音楽隊(マーチングバンド)を再編成する。
平成5年3月	島田消防本部新消防庁舎(島田市旗指)を竣工し移転する。併せて消防緊急通信指令施設Ⅱ型を導入し運用開始する。
平成6年4月	金谷消防署新庁舎(金谷町島)を竣工し移転する。
平成7年12月	職員定数を129人に改正する。
平成9年3月	川根町、中川根町、本川根町の組合加入により「島田市・北榛原地区衛生消防組合」として発足する。(構成市町は1市4町となる。)
10月	川根北分遣所庁舎を竣工し、職員17人及び消防ポンプ自動車・救急自動車各1台を配置する。
平成10年4月	職員定数を131人に改正する。
10月	川根南分遣所庁舎を竣工し、職員13人及び消防ポンプ自動車・救急自動車各1台を配置する。
平成11年3月	白羽山無線中継所(中川根町水川)を設置する。
4月	女性消防吏員を採用する。
平成13年11月	島田消防署六合分遣所庁舎(島田市道悦二丁目)を竣工し移転する。
平成15年11月	川根北分遣所高規格救急自動車を更新する。
平成17年1月	島田消防署高規格救急自動車を更新する。
5月	5月5日島田市と金谷町が合併し「島田市」が誕生する。(構成市町は1市3町となる。)
9月	9月20日中川根町と本川根町が合併し「川根本町」が誕生する。(構成市町は1市2町となる。)
10月	金谷消防署高規格救急自動車を更新する。
平成20年3月	3月31日「島田市・北榛原地区衛生消防組合」を解散する。
4月	4月1日川根町が島田市へ編入合併する。消防本部の名称を「島田市消防本部」とし、川根本町の消防事務を島田市が受託する。焼津市と通信指令事務の共同運用を開始し、島田市から消防職員4人を焼津市へ派遣する。
平成21年1月	川根南分遣所高規格救急自動車を更新する。
平成22年4月	島田消防署に特別救助隊を配置する。
10月	六合分遣所高規格救急自動車を更新する。(「JA」寄贈)島田消防署救助工作車を更新する。
平成24年1月	島田消防署に支援車を配置する。
4月	職員定数を150人に改正する。機構改革により、警防課を新設する。

年 月	沿 革 事 項
平成 25 年 2月 3月	2月 28 日焼津市との通信指令事務の共同運用（事務委託）を廃止する。 3月 1 日島田市消防本部消防庁舎に消防通信指令システム離島型を整備し運用開始する。 初倉分遣所高規格救急自動車を更新する。

平成25年度 島田市消防本部行政組織・消防施設概要

●消防本部の組織図

平成25年4月1日



部署名	人数
消防本部	27
島田消防署	44
六合分遣所	11
初倉分遣所	11
金谷消防署	24
川根南分遣所	12
川根北分遣所	14
合計	143

●消防庁舎等の施設概要

施設名	所在地	建物構造	建築面積(㎡)	延べ面積(㎡)	敷地面積	建築年月日	建設費(千円)
島田消防署(消防本部)	島田市旗指513-1	RC造3F建(地下1F)	建 1176.14	延 3505.63	3658.45	平成5年3月	1,472,000
六合分遣所	島田市道悦2-29-15	鉄骨造2F建	建 347.56	延 443.27	1010.88	平成13年11月	133,623
初倉分遣所	島田市阪本1526-4	鉄骨造2F建	建 242.25	延 337.50	911.80	昭和56年3月	80,541
金谷消防署	島田市島863-1	RC造2F建	建 773.24	延 1247.19	2304.86	平成6年3月	544,971
川根南分遣所	島田市川根町身成3481-1	鉄骨造2F建	建 381.26	延 537.50	2077.73	平成10年9月	167,328
川根北分遣所	川根本町元藤川2-4	鉄骨造2F建	建 348.58	延 532.99	1193.03	平成9年9月	175,770
白羽山無線中継局舎	川根本町水川837-6	RC造2F、鉄塔H10m	建 36.00	延 36.00	100.00	平成11年3月	54,693

消防力の現有数と「消防力の整備指針」の基準数との比較表

平成25年4月1日 現在

区分		整備指針の内容		現有数	基準数	比較増減
署所数	消防署	市街地人口1万人以上		2	2	0
	分遣所	準市街地1,000人以上1万人未満 平均建ぺい率10%以上		4	4	0
	計(署所)			6	6	0
消防車両の台数	消防ポンプ車 [水槽付ポンプ車を含む]	署所で管理する台数	島田市	5	8	△ 3
			川根本町	1	1	0
	消防はしご車 [屈折はしご車]	中高層建築物の棟数等により1台以上 (10棟以上、出動から活動開始30分等)		1	1	0
	化学消防車	危険物施設の数、貯蔵取扱の数量等 (5対象施設数50以上500未満1台、500以上 1,000未満2台等)		1	2	△ 1
	高規格救急車	人口3万人ごとに1台 (地域の特殊事情により弾力運用)		6	4	2
	救助工作車	消防署の数		2	2	0
	(再掲) 救助工作車[Ⅱ型]	[人口10万人以上] 特別救助隊が使用する救助工作車		1	1	0
計(台)		□		16	18	△ 2
消防職員 の人数	消防隊員	消防ポンプ車	消防ポンプ車1台につき5人又は4人	116	267	△ 151
		水槽付ポンプ車				
	救急車	救急車1台につき3人				
	救助工作車	救助工作車1台につき5人				
	屈折はしご車	屈折はしご車1台につき5人				
	化学消防車	化学消防車1台につき5人				
	指揮車	指揮車1台につき3人				
	査察車(広報車)					
	通信員	人口10万人に対し5人	9	5	4	
	予防要員	《予防事務に従事する職員数》 防火対象物の数、1戸建て住宅数に係数を乗じた数		4	20	△ 16
《危険物事務に従事する職員数》 危険物施設に補正係数を乗じた数		2	2	0		
庶務処理等の人員	消防本部及び消防署の庶務を担当する職員		12	9	3	
計(人)				143	303	△ 160
消防職員現有数の充足率(現有数÷基準数=)				47.2%		
消防職員の定数(人)				150		
消防職員定数の充足率(定数÷基準数=)				49.5%		

※人口は、平成25年3月31日現在で算定している。

平成25年度一般会計常備消防費等予算内訳（消防本部事項別を抜粋）

1 節別明細書

(1) 歳入（常備消防費に係る項目を抜粋）

（単位：千円）

年度 節区分	平成25年度	平成24年度	比較増減
消防使用料	947	889	58
消防手数料	1,071	829	242
県支出金（権限移譲事務交付金）	20	20	
県支出金（消防費県補助金）	4,655	2,516	2,139
県支出金（労働費県補助金）		13,430	△ 13,430
雑収入（消防雑入）	15,953	10,150	5,803
消防事務受託事業収入	171,955	183,090	△ 11,135
消防通信指令システム整備事業負担金		19,293	△ 19,293
消防債	11,500	□	11,500
合計	206,101	230,217	△ 24,116

(2) 歳出

（単位：千円）

年度 節区分	平成25年度	平成24年度	比較増減
給与	522,626	521,999	627
職員手当	404,106	477,671	△ 73,565
共済費	179,755	174,071	5,684
賃金	195	306	△ 111
旅費	5,704	4,793	911
需用費	54,118	51,727	2,391
役務費	23,257	16,046	7,211
委託料	13,073	31,301	△ 18,228
使用料及び賃借料	14,040	11,546	2,494
工事請負費		122,146	△ 122,146
原材料費	54	22	32
備品購入費	42,854	35,355	7,499
負担金・補助及び交付金	12,092	42,385	△ 30,293
公課費	1,174	735	439
合計	1,273,048	1,490,103	△ 217,055

2 事業別概要明細書

（単位：千円）

年度 事業名	平成25年度	平成24年度	比較増減
一般職（給与費）	1,106,487	1,173,741	△ 67,254
消防通信指令業務整備事業	—	119,985	△ 119,985
消防通信指令業務運用事業	7,447	—	7,447
消防広域化（準備会・協議会）事業	333	267	66
消防総合情報システム整備事業		1,318	△ 1,318
消防救急無線デジタル化整備事業		5,860	△ 5,860
本部費	46,225	37,800	15,780
総務事務費	6,553	8,930	
警防事務費	802	1,205	
予防事務費			
本部自動車購入事業	2,400	—	
島田消防署費 （六合・初倉分遣所費含む。）	30,888	29,379	1,509
島田消防署自動車購入事業	34,901	29,000	5,901
金谷消防署費 （川根南分遣所費含む。）	19,959	19,998	△ 39
川根北分遣所費	6,667	6,306	361
無線局施設等管理事業	5,203	5,209	△ 6
緊急雇用創出事業 （予防課事業）	—	13,430	△ 13,430
大規模地震対策等総合支援事業 （資機材等購入）	5,183	5,197	△ 14
焼津市との通信指令業務共同運用負担金	—	32,478	△ 32,478
合計	1,273,048	1,490,103	△ 217,055

消防職員所属別配置状況

平成25年4月1日現在 (単位:人)

□ 課署所等別		階級別		消 防 副 士 長	消 防 士 長	消 防 副 士 長	消 防 士	職 の 他 員 の	計	
		消 防 監	消 防 司 令 長							
消 防 本 部	消 防 長	1							1	
	消 防 次 長									
	消 防 総 務 課	課 長		1						1
		課長補佐			2					2
		総務係			(1)				1	1 (1)
		広域消防係			(1)	1				1 (1)
		県航空隊派遣				1				1
		県消防学校派遣				1				1
		島田市派遣				1				1
	警 防 課	課 長		1						1
		課長補佐			1					1
		警防係			(1)	1				1 (1)
		通信指令係			1	4	2	1	1	9
	予 防 課	課 長		1						1
		課長補佐			1					1
		予防係			(1)	1		1		2 (1)
		危険物係			1		1			2
	小 計		1	3	6 (4)	10	3	2	1	27 (4)
	島 田 消 防 署	消 防 署 長		1						1
		副 署 長			1					1
		警 備 隊 長			3					3
		管理査察係			3	7	4	5	5	24
		救急救助係			2	4	1	5	3	15
		六合分遣所			1	4	1	1	4	11
		初倉分遣所			1	4	2	1	3	11
	小 計			1	11	19	8	12	15	66
	金 谷 消 防 署	消 防 署 長		1						1
副 署 長				1					1	
管理査察係				3	7	3	2	7	22	
川根南分遣所				1	4	2	1	4	12	
川根北分遣所				2	5	3	1	3	14	
小 計			1	7	16	8	4	14	50	
合 計		1	5	24 (4)	45	19	18	30	143 (4)	

※ 括弧書きは兼務を表す。

消防職員勤続年数及び年齢

平成25年4月1日現在

1 階級別

(単位：人) □

階級等		構成比	消防監	消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防副士長	消防士	職その他員の	計
勤続年数・年齢別											
計		100%	1	5	24	45	19	18	30	1	143
勤続年数別	1年未満	6%							9		9
	1年以上5年未満	19%						7	20		27
	5年以上10年未満	8%						10	1		11
	10年以上15年未満	5%					5	1		1	7
	15年以上20年未満	29%				28	14				42
	20年以上25年未満	6%				8					8
	25年以上30年未満	3%			1	3					4
	30年以上35年未満	9%		1	10	2					13
	35年以上	15%	1	4	13	4					22
年齢別	18歳以上20歳未満	6%							8		8
	20歳以上25歳未満	13%						19			19
	25歳以上30歳未満	9%						11	2		13
	30歳以上35歳未満	15%					13	7	1		21
	35歳以上40歳未満	17%				19	4			1	24
	40歳以上45歳未満	13%				16	2				18
	45歳以上50歳未満	4%			2	4					6
	50歳以上55歳未満	8%			10	1					11
	55歳以上	16%	1	5	12	5					23
平均勤続年数(年)			36	38	35	20	14	5	1		17
平均年齢(歳)			58.0	57.6	54.2	42.1	34.7	28.3	21.8		37.8

2 職名別

(単位：人)

階級等		構成比	消防長	課消防署長	課副長 署補佐長	係分遣所長	主査	主事	書記	消防員	計
勤続年数・年齢別											
計		100%	1	5	7	17	45	29	23	16	143
勤続年数別	1年未満	6%								9	9
	1年以上5年未満	19%							20	7	27
	5年以上10年未満	8%						8	3		11
	10年以上15年未満	5%						7			7
	15年以上20年未満	29%					28	14			42
	20年以上25年未満	6%					8				8
	25年以上30年未満	3%				1	3				4
	30年以上35年未満	9%		1	3	7	2				13
	35年以上	15%	1	4	4	9	4				22

消防職員研修状況

(単位：人)

年 度		平成25年度 (予定)							平成24年度								
□ 教育科目	階 級 別	消 防 監	消 防 司 令 長	消 防 司 令	消 防 司 令 補	消 防 士 長	消 防 副 士 長	消 防 士	消 防 監	消 防 司 令 長	消 防 司 令	消 防 司 令 補	消 防 士 長	消 防 副 士 長	消 防 士		
	消防大学	警防科				1											
救助科													1				
幹部科				1	2							2					
県 消 防 学 校	初任教育	初任科						9							11		
	幹部教育	中級幹部科				2						2					
		上級幹部科				2						2					
	専科教育	予防査察科					1	1					1	1			
		火災調査科					1	1					2				
		救急科					1	3	3					1	2	3	1
		救助科						3	2						1	2	1
		警防科					1	1						1	1		
		危険物科					1	1						1	1		
	ビデオ喉頭鏡講習					2	1										
救命士研修		救命士資格取得研修					1							1	1		
実務研修等	消防実務研修会				1								1				
	違反是正事例研究会(県)					2							2				
	違反是正事例研究会(関東支部)					1	1					1			1		
	消防機関事故原因究明技術研究会						1							1			
	調査技術会議					1		1									
	全国救助シボジウム					1	1							2			
	テクニカルロープレスキュー						1										
	救急救命士気管挿管病院実習					2								1			
	日本救急医学会関東地方会・学術会					1									1		
	日本救急医学会中部地方会・学術会					2	3						1				
	JPTEC研修						2	3					3	1			
救急コメディカルセミナー						1							2				
合 計				4	22	22	9	9			3	17	15	7	14		
年度派遣職員数		66							56								

○ 研修予算明細

(単位：千円)

年 度	平成25年度	平成24年度	比較増減
研修旅費	4,444	4,348	96
消防学校等負担金	8,765	8,926	△ 161
合 計	13,209	13,274	△ 65

予 防

防火対象物の数と立入検査実施状況

防火対象物		防火対象物の数 (平成 25. 3. 31 現在)			立入検査実施状況 (平成 24. 4. 1～ 平成 25. 3. 31)		
		島 田 市	川 根 本 町	計	島 田 市	川 根 本 町	計
1 項	イ 劇場、映画館、演芸場又は観覧場	2		2	1		1
	ロ 公会堂又は集会場	76	21	97	21		21
2 項	イ キャバレー、カフェー、ナイトクラブ	1		1	1		1
	ロ 遊技場又はダンスホール	7		7	2		2
	ハ 風俗関連特殊営業を営む店舗				1		1
	ニ カラオケボックスその他遊興の個室用店舗	3		3	1		1
3 項	イ 待合、料理店						
	ロ 飲食店	74	3	77	23		23
4 項	百貨店、マーケット、その他の店舗等	170	6	176	49	2	51
5 項	イ 旅館、ホテル又は宿泊所	34	34	68	31	24	55
	ロ 寄宿舎、下宿又は共同住宅	799	24	823	30	1	31
6 項	イ 病院、診療所又は助産所	42	4	46	3	1	4
	ロ 老人短期入所施設等	24	1	25	34	3	37
	ハ 老人デイサービスセンター等、保育所	55	13	68	14	4	18
	ニ 幼稚園、特別支援学校	13	1	14			
7 項	小、中、高校、大学又は各種学校	92	21	113	2	1	3
8 項	図書館、博物館又は美術館	4	3	7			
9 項	イ 公衆浴場のうち蒸気浴場、熱気浴場	1		1	1		1
	ロ イに掲げる公衆浴場以外の公衆浴場		3	3			
10 項	車両の停車場、船舶、航空機の発着場	2	1	3	1		1
11 項	神社、寺院、教会	62	4	66	23		23
12 項	イ 工場又は作業場	1,066	119	1,185	120	23	143
	ロ 映画スタジオ又はテレビスタジオ						
13 項	イ 自動車車庫又は駐車場	53	2	55	1		1
	ロ 飛行機又は回転翼航空機の格納庫						
14 項	倉庫	533	29	562	27	1	28
15 項	前各項に該当しない事業所	425	42	467	40	3	43
16 項	イ 特定部分が存する複合用途防火対象物	250	20	270	69		69
	ロ 上記以外の複合用途防火対象物	100	5	105	10		10
16 項の 2	地下街						
16 項の 3	準地下街						
17 項	重要文化財（建造物）	20	4	24	13	4	17
18 項	延長 50m 以上のアーケード						
19 項	市町村長の指定する山林						
20 項	総務省令で定める舟車						
合 計		3,908	360	4,268	518	67	585

用途別建築同意件数

平成 24 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日

用途別 \ 市町別	島田市	川根本町	計
特定防火対象物 (店舗、集会場等)	31		31
非特定防火対象物 (工場、共同住宅等)	32	1	33
合 計	63	1	64

消防関係法令に基づく各種届出等の件数状況

平成 24 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日

届出種別 \ 市町別	島田市	川根本町	計
火災とまぎらわしい煙等を発生するおそれのある行為届	102	60	162
道路工事届	461	26	487
水道等断減水届	10		10
煙火打上げ届	122	24	146
催物開催届	10		10
禁止行為の解除承認申請	8		8
防火対象物使用開始届	36		36
火気使用設備等の設置届	58	3	61
発・変・蓄・燃料電池設置届	44		44
少量危険物貯蔵取扱届	29	3	32
少量危険物廃止届	9	1	10
液化石油ガス・圧縮アセチレンガス取扱届	24		24
合 計	913	117	1,030

予防指導実施件数状況

平成 24 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日

実施項目	市 町 別	島田市	川根本町	計
消 防 相 談		7	1	8
一 般 家 庭 防 火 訪 問		861	166	1,027
自家用バス自主点検指導				
枯 草 調 査		63		63
空 家 調 査		144	63	207
合 計		1,075	230	1,305

煙火消費許可件数

平成 24 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日

島田市	川根本町	計
24	10	34

危険物製造所等現有数

平成 25 年 3 月 31 日現在

施設等	市 町 別	島田市	川根本町	計	
危 険 物 施 設	製 造 所	2		2	
	貯 蔵 所	屋 内 貯 蔵 所	70	3	73
		屋 外 タ ン ク 貯 蔵 所	93	12	105
		屋 内 タ ン ク 貯 蔵 所	28	8	36
		地 下 タ ン ク 貯 蔵 所	56	5	61
		移 動 タ ン ク 貯 蔵 所	42	10	52
		屋 外 貯 蔵 所	4		4
	取 扱 所	給 油 取 扱 所	61	10	71
		販 売 取 扱 所	4		4
		一 般 取 扱 所	78	16	94
合 計		438	64	502	

危険物製造所等立入検査実施件数状況

平成 24 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日

施設等	市 町 別	島田市	川根本町	計
危険物施設		113	15	128

広報啓蒙活動

平成 24 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日

実施項目	実施回数・団体数等	参加人員等	実施内容
防火のつどい	金谷消防署 1回	108人	金谷地区の幼稚園および保育園の園児を対象に防火映画、花火教室等を実施した。
防火ポスターコンクール	島田市 1回 市内 18校	応募数 311点	市内の小学5・6年生から防火ポスターを募集し、優秀作品を表彰するとともに、市内に展示した。
林野パトロール	林道・ハイキングコース	島田市 25人 川根本町 3人	ハイキングコースや林道を調査し、防火四角柱を掲出した。
花火教室	島田市 7回 川根本町 1回	島田市 845人 川根本町 50人	幼稚園および保育園の園児を対象に玩具花火の正しい遊び方について指導した。
火災予防運動 車両巡回広報	島田市 17回 川根本町 5回	島田市 64人 川根本町 20人	春・秋の全国一斉火災予防運動期間中に、市町内全域の車両巡回広報を行った。
消防庁舎見学	島田消防署 23回 初倉分遣所 2回 金谷消防署 5回 川根北分遣所 2回 川根南分遣所 2回	1,498人 109人 546人 16人 65人	来庁者（保育園、幼稚園児・小学生・一般など）に、消防署の仕事内容、消防車両及び通信施設などの説明を行い、防災・防火の意識高揚を図った。
防火講習会 及び消防訓練	島田市 38回 川根本町 3回	5,394人 311人	自治会、病院、学校、事業所などを対象に防火講習会地震体験及び消防訓練の指導を実施した。
広報誌掲載	島田市 14回		広報誌に防災・防火に関する記事を掲載した。

幼年消防クラブの結成状況

幼年消防クラブとは

幼年期の子供が防火に関する正しい知識を身に付け、もって火災の発生を防止するとともに、人命を尊重し、財産の保全を図る社会人としての素地を育成することを目的に結成された。

幼年消防クラブ名(園)

平成25年3月31日現在

番号	クラブ名(園)	クラブ員数	結成年月日
1	島田市立かわね保育園	97人	昭和55年4月1日
2	島田市立第一保育園	93人	昭和62年6月1日
3	金谷幼稚園	118人	〃
4	六合第一保育園	126人	昭和63年3月1日
5	初倉保育園	134人	〃
6	五和保育園	307人	〃
7	神谷城保育園	87人	〃
8	大津保育園	107人	平成元年3月1日
9	島田中央幼稚園	375人	〃
10	六合第二保育園	98人	〃
11	伊久身幼稚園	13人	平成元年7月1日
12	みどり幼稚園	162人	平成2年3月1日
13	島田市立第三保育園	82人	〃
14	六合幼稚園	80人	〃
15	島田南幼稚園	317人	〃
16	島田北幼稚園	145人	〃
17	島田聖母保育園	121人	平成3年3月1日
18	島田市立金谷中央保育園	85人	〃
19	ゆたか保育園	72人	〃
20	島田学園附属幼稚園	309人	平成4年4月1日
21	島田学園五和幼稚園	63人	平成5年5月1日
22	くりのみ保育園	21人	平成18年8月1日
23	こばと保育園	51人	平成20年4月25日
24	月坂保育園	114人	平成20年4月25日
合 計		3,177人	

火災統計

火 災 概 要

火 災 発 生 状 況

平成24年1月1日～平成24年12月31日

月別	火災種別					焼損棟数					り災程度(世帯)				り災人員	死傷者		焼失面積			損害見積額(千円)				
	建物	林野	車両	その他	計	全焼	半焼	部分焼	ぼや	計	全損	半損	小損	計		死者	傷者	建物	林野	林野 ^a	建物	林野	車両	その他	計
1	3		1	2	6	1		1	1	3	0	0	1	1	3	1	1	14		3,908		52	200	4,160	
2			1	1	2					0				0								350	50	400	
3	6				6	7		2	1	10	2		3	5	19	1	4	294		20,106				20,106	
4				1	1					0				0										0	
5	2				2				2	2			1	1	1					79				79	
6	2		1	1	4	4	1			5	1	1		2	11			274		7,389		373	7,160	14,922	
7			2		2					0				0								189		189	
8			1		1					0				0								778		778	
9	1				1				1	1				0						1				1	
10			1		1					0				0								1,300		1,300	
11	2				2	1		2		3	1		1	2	3	1		108		7,601				7,601	
12			1		1					0				0								2,834		2,834	
合計	16	0	8	5	29	13	1	5	5	24	4	1	6	11	37	2	5	690	0	39,084	0	5,876	7,410	52,370	
前年	11	1	1	9	22	3	1	5	4	13	1	1	6	8	20	0	3	469	1	26,203	0	163	292	26,658	

市 町 別 火 災 発 生 状 況

平成24年1月1日～平成24年12月31日

市町別	火災種別					焼損棟数					り災程度(世帯)				り災人員	死傷者		焼失面積			損害見積額(千円)				
	建物	林野	車両	その他	計	全焼	半焼	部分焼	ぼや	計	全損	半損	小損	計		死者	傷者	建物 ^{m²}	林野 ^a	建物	林野	車両	その他	計	
島田	14	0	6	5	25	5	1	5	5	16	2	1	6	9	30	1	5	423	0	33,978	0	4,226	7,410	45,614	
川根本	2	0	2	0	4	8	0	0	0	8	2	0	0	2	7	1	0	267	0	5,106	0	1,650	0	6,756	
合計	16	0	8	5	29	13	1	5	5	24	4	1	6	11	37	2	5	690	0	39,084	0	5,876	7,410	52,370	

最近5年間の火災状況

各年の集計期間 1月1日～12月31日

区 分		年 別				
		平成24年	平成23年	平成22年	平成21年	平成20年
出火件数(件)	建物火災	16	11	17	18	21
	林野火災		1		1	2
	車両火災	8	1	5	4	7
	その他火災	5	9	12	8	11
	件数合計	29	22	34	31	41
焼損面積	建物火災(㎡)	690	469	689	1,117	1,166
	林野火災(a)		1		3	7
死傷者(人)	死者	2		1	1	2
	傷者	5	3	2	7	6
	計	7	3	3	8	8
り災世帯(世帯)		11	8	8	20	20
り災人員(人)		37	20	23	62	67
損害額(千円)	建物の損害	39,084	26,203	50,044	58,311	55,997
	林野の損害				20	203
	車両の損害	5,876	163	1,124	21,000	1,528
	その他の損害	7,410	292	1,522	3,362	382
	損害合計	52,370	26,658	52,690	82,693	58,110

最近5年間の原因別火災発生件数

各年の集計期間 1月1日～12月31日

平成24年		平成23年		平成22年		平成21年		平成20年	
出火原因	件数	出火原因	件数	出火原因	件数	出火原因	件数	出火原因	件数
電気関連	8	放火(疑念)	1	放火(疑念)	7	タバコ	5	タバコ	7
タバコ	4	火遊び	2	火遊び	5	高温物の接触	4	放火(疑念)	6
コンロ	4	ゴミの焼却	4	車両関連	4	放火(疑念)	4	火遊び	5
高温物	3	タバコ	3	電気関連	3	コンロ	3	電気関連	4
ストーブ	2	バーナー	1	ゴミの焼却	2	電気関連	3	コンロ	4
ライター	1	コンロ	1	タバコ	2	ゴミの焼却	2	燃料漏れ	3
熔接火花	1	高温物の接触	2	ストーブ	2	ブレーキ過	2	高温物の接触	3
				工業用機器	2			焼却炉等	3
その他	3	その他	4	その他	3	その他	2	その他	1
不明	3	不明	4	不明	4	不明	6	不明	5
合計	29	合計	22	合計	34	合計	31	合計	41

警 防

消防水利

1 現有数 (署所別)

平成25年4月1日現在

署所別 (管内)	消 火 栓					防 火 水 槽					その他				合 計
	地上	地上	地下	地下	小計	10m3以上	20m3以上	40m3以上		小計	プール	池	井戸	小計	
	双口	単口	双口	単口		20m3未満	40m3未満	非耐震	耐震						
島田消防署	1	2	13	434	450	9	17	9	54	89	18	2		20	559
六合分遣所				170	170	3	22	1	21	47	6			6	223
初倉分遣所				186	186	29	50	8	25	112	4			4	302
金谷消防署		1		259	260	2	26	59	83	170	5	2		7	437
川根南分遣所				26	26	27	50	43	77	197	4	1		5	228
川根北分遣所						27	79	100	128	334	11			11	345
合 計	1	3	13	1,075	1,092	97	244	220	388	949	48	5		53	2,094

2 消防署が火災に使用した年間水量

平成24年1月1日～平成24年12月31日 (単位：m3)

消火栓	防 火 水 槽	自然水利	プール	積載水	合 計
268	130	81		40.8	519.8

火 災 出 動 状 況

平成24年 1 月 1 日～平成24年12月31日

火災 番号	火 災 発生日	火 災 種 別	出 動			出 動			火 掛 り			備 考
			ポンプ車等 (台)			人 員 (人)			ポンプ車等 (台)			
			署	団	計	署	団	計	署	団	計	
1	1月4日	その他	6	1	7	15	2	17	2		2	
2	1月8日	建物	6	12	18	18	76	94	3	1	4	
3	1月13日	その他	5	2	7	13	10	23				
4	1月15日	車両	7	1	8	22	5	27				
5	1月18日	建物	6	5	11	24	23	47	1		1	
6	1月27日	建物	6	8	14	17	54	71	1	3	4	
7	2月3日	車両	5	1	6	16	15	31	1		1	
8	2月10日	その他	4		4	12		12	1		1	
9	3月1日	建物	2		2	5		5				事後聞知
10	3月3日	建物	5	4	9	18	29	47	4	4	8	
11	3月5日	建物	3		3	18		18				
12	3月6日	建物	7	11	18	25	123	148	4	4	8	
13	3月16日	建物	6	5	11	20	39	59	3		3	
14	3月19日	建物	10		10	32		32			0	
15	4月6日	その他	3		3	9		9	1		1	
16	5月24日	建物	5	2	7	15	16	31				
17	5月29日	建物	5	1	6	13	3	16				
18	6月2日	建物	6	14	20	18	163	181	1	4	5	
19	6月3日	その他	6	5	11	18	43	61				
20	6月8日	建物	8	8	16	25	56	81	4	4	8	
21	6月8日	車両	4		4	13		13				
22	7月11日	車両	3		3	9		9				
23	7月16日	車両	6		6	19		19	2		2	
24	8月3日	車両	3		3	8		8	2		2	
25	9月12日	建物	2		2	5		5				
26	10月15日	車両	6	2	8	18	9	27	2	1	3	
27	11月27日	建物	9	6	15	31	36	67	5	2	7	
28	11月30日	建物	6	20	26	1	7	8				
29	12月7日	車両	6		6	18		18	1		1	
合 計			156	108	264	475	709	1,184	38	23	61	

消 防 活 動 状 況

平成24年1月1日～平成24年12月31日（単位：件）

種別 月別	再燃警戒	非火災報	油漏れ	ガス漏れ	風水害	揚煙 怪煙	へり支援	救急支援	誤報	その他	計
	1月	3	3	4	1			4	49		
2月		1	2			1		38		1	43
3月	4		4			1	5	31	1	5	51
4月		1	4				8	39		2	54
5月		5	1	1			7	33		3	50
6月	1	3	3		2	2	9	30	2	2	54
7月		2	1		1		4	30		1	39
8月			1		1	1	8	34		2	47
9月			2			1	4	27		2	36
10月		1	3				5	30		8	47
11月	1		6				2	28		1	38
12月		2	2			1	5	50	1		61
計	9	18	33	2	4	7	61	419	4	27	584

（注）用語説明

再燃警戒：火災が鎮火して現場引揚後の残火による再燃焼を警戒するため、火災現場へ出向したものの。

非火災報：自動火災報知設備の発報により出動したが、火災ではなかったもの。

油漏れ：交通事故などにより油類が漏れたため油吸着剤を使用し、二次災害防止措置を実施したものの。

ガス漏れ：ガス管などから都市ガス、LPGが漏れたため、警戒活動を実施したものの。

風水害：台風、集中豪雨などによる増水、道路損壊、住宅被害に対応したものの。

揚煙怪煙：火災とまぎらわしい煙の発生を調査したものの。

へり支援：ドクターへり、静岡県防災へりの離着陸に伴い、へりポート周囲の安全管理を実施したものの。

救急支援：救急隊のみでは救出・搬送が困難な事案に対し、指揮隊、消防隊、救助隊が同時に出動し救急隊の支援を実施したものの。

誤報：火災として入電し出動したが、火災ではなかったもの。

その他：上記以外の出動をいう。

消防車両等の配備状況

平成25年4月1日現在

	車 両 種 別	購入年月	総排気量 (cc)	規格	ポンプ 能 力	備 考
消防本部・島田消防署	指 令 車 (1号車)	H9.9	3,150			
	指 令 車 (2号車)	H12.8	1,990			
	指 揮 車	H20.10	1,990			
	水槽付消防ポンプ自動車	H11.12	8,220	I-A型	A 2	水 1,500ℓ
	屈折梯子付消防ポンプ自動車	H5.12	7,410	20m級	A 2	
	小型動力ポンプ付水槽車	H9.12	19,000	Ⅱ型	B 2	水 10,000ℓ
	化学消防車	H7.9	7,960	I型	A 1	水 1,000ℓ 薬液 600ℓ
	救助工作車	H22.10	5,910	Ⅱ型	A 2	
	支 援 車	H23.12	2,990			
	救 急 車	H17.1	3,490			高規格
	査 察 車 (1号車)	H7.10	2,660			
六合分遣所	消防ポンプ自動車	H7.12	4,570	CD-I型	A 2	水 900ℓ
	救 急 車	H22.11	2,690			高規格 4輪駆動
	査 察 車	H11.9	1,990			4輪駆動
初倉分遣所	消防ポンプ自動車	H7.1	4,330	CD-I型	A 2	水 900ℓ
	救 急 車	H25.3	2,690			高規格 4輪駆動
	査 察 車	H22.7	1,990			
金谷消防署	水槽付消防ポンプ自動車	H20.1	5,190	Ⅱ型	A 2	水 2,000ℓ
	小型動力ポンプ付水槽車	S63.3	6,490	I型	B 2	水 5,000ℓ
	救助工作車	H7.2	7,410	Ⅱ型	A 2	水 950ℓ
	救 急 車	H17.10	3,370			高規格
	査 察 車	H23.8	1,997			4輪駆動
川根南分遣所	水槽付消防ポンプ自動車	H10.8	7,960	I-A型	A 2	水 1,500ℓ 4輪駆動
	救 急 車	H21.1	2,690			高規格 4輪駆動
	査 察 車	H10.8	3,150			4輪駆動
川根北分遣所	水槽付消防ポンプ自動車	H9.5	7,960	I-A型	A 2	水 1,500ℓ 4輪駆動
	救 急 車	H23.11	2,690			高規格 4輪駆動
	査 察 車	H9.9	2,440			4輪駆動

初倉救急車購入に伴う変更
初倉ポンプ車と金谷ポンプ車の配置換え

消防用資機材一覧表

平成 25 年 4 月 1 日現在

	備品名	現有数	本 部	島 田	六 合	初 倉	金 谷	川根南	川根北
消防活動用	可搬動力ポンプ	7		1		1	3	1	1
	無線機（携帯 10W）	7		2	1	1	1	1	1
	キセノンライト（携帯投光器）	8		3	1	1	1	1	1
	化学防護服	10		10					
	ホース洗浄機	5		1	1		1	1	1
	発電機	2		1					1
	災害用テント （ビッグテント・エアーテント）	2		2					
	緊急飲料水ろ過水装置	6		1	1	1	1	1	1
	削岩機	2						1	1
	ガス検知警報機	1		1					
	ファイヤーファインダー （火源探知機）	1					1		
	夜間暗視装置（赤外線スコープ）	1		1					
	三連はしご （ステンレス製・車積載用）	5		2			1	1	1
三連はしご（訓練用）	1		1						
救急活動用	殺菌線消毒ロッカー	2		1			1		
	超音波消毒器（救急用）	1					1		
	滅菌機	1		1					
	人工蘇生器（携帯用）	5		1	1		2		1
	自動人工呼吸器（車積載用）	3					1	1	1
	自動心マッサージ機	6		1	1	1	1	1	1
	AED（自動体外式除細動器）	7		2	1	1	1		2
	半自動式除細動器	3				1		1	1
	心電図モニター （血中飽和度測定器等）	5		1	1	1	1	1	
	人工蘇生器オートバンド	7		1	1	1	2	1	1
	携帯用パルスオキシメーター	3		1			1		1
	輸液ポンプ	3		1			1		1
	心肺蘇生用実習シミュレーター （救命士用）	2		1					1
	気管挿管モデル人形 （救急訓練用）	1					1		
	除細動訓練人形（成人用）	3		3					
救助活動用	大型油圧式救助器具（一式）	4		1			1	1	1
	油圧式救助器具（一式）	3		1			1		1
	油圧式救助器具（大型用パーツ）	2					1		1
	マット型空気ジャッキ（一式）	4		1			1	1	1
	救命索発射銃（エアー銃）	2		1					1
	ロールグリス（マンホール救助器具）	4		1			1	1	1

	備品名	現有数	本 部	島 田	六 合	初 倉	金 谷	川根南	川根北
救助活動用	ゴムボート	2		1					1
	画像探索機	2		2					
	地中音響探知器	1		1					
	万能搬送器具	4		3				1	
	酸素溶断機	1		1					

通信

無 線 局 現 況

1 基 地 局

平成25年4月1日現在

識 別 信 号	設 置 場 所	緯 度	経 度	海 抜	空 中 線 高
しまだしょうぼう きゅうきゅうしまだ	島田市旗指513番地の1	34度50分20秒	138度10分14秒	95.6m	31m
しまだしょうぼうしろわ きゅうきゅうしまだしろわ	川根本町水川字宇津 837番地の6	35度03分19秒	138度04分55秒	791.5m	27m
かわねしょうぼう	川根本町元藤川2番地の4	35度01分06秒	138度06分19秒	285.6m	20m
かなやしょうぼう きゅうきゅうかなや	島田市島863番地の1	34度50分23秒	138度04分55秒	103.5m	25m

(注) 周波数 市町村波 150.19MHz
 県内共通波 149.69MHz
 全国共通波 150.73MHz・148.75MHz・154.15MHz
 救急波 147.42MHz・143.42MHz

2 陸 上 移 動 局

平成25年4月1日現在

規 格	署 所 別						総 数
	島 田 消 防 署	六 合 分 遣 所	初 倉 分 遣 所	金 谷 消 防 署	川 根 南 分 遣 所	川 根 北 分 遣 所	
車 載	11	3	3	5	3	3	28
出力10W	(10)	(1)	(2)	(5)	(3)	(3)	(24)
携 帯	2	1	1	1	1	1	7
出力10W	(1)	(1)		(1)	(1)	(1)	(5)
携 帯	13		1	2	3	4	23
出力5W	(13)		(1)	(2)	(3)	(4)	(23)
携 帯	10	3	3	4			20
出力1W	(7)	(2)	(3)	(4)			(16)
合 計	36 (31)	7 (4)	8 (6)	12 (12)	7 (7)	8 (8)	78 (68)

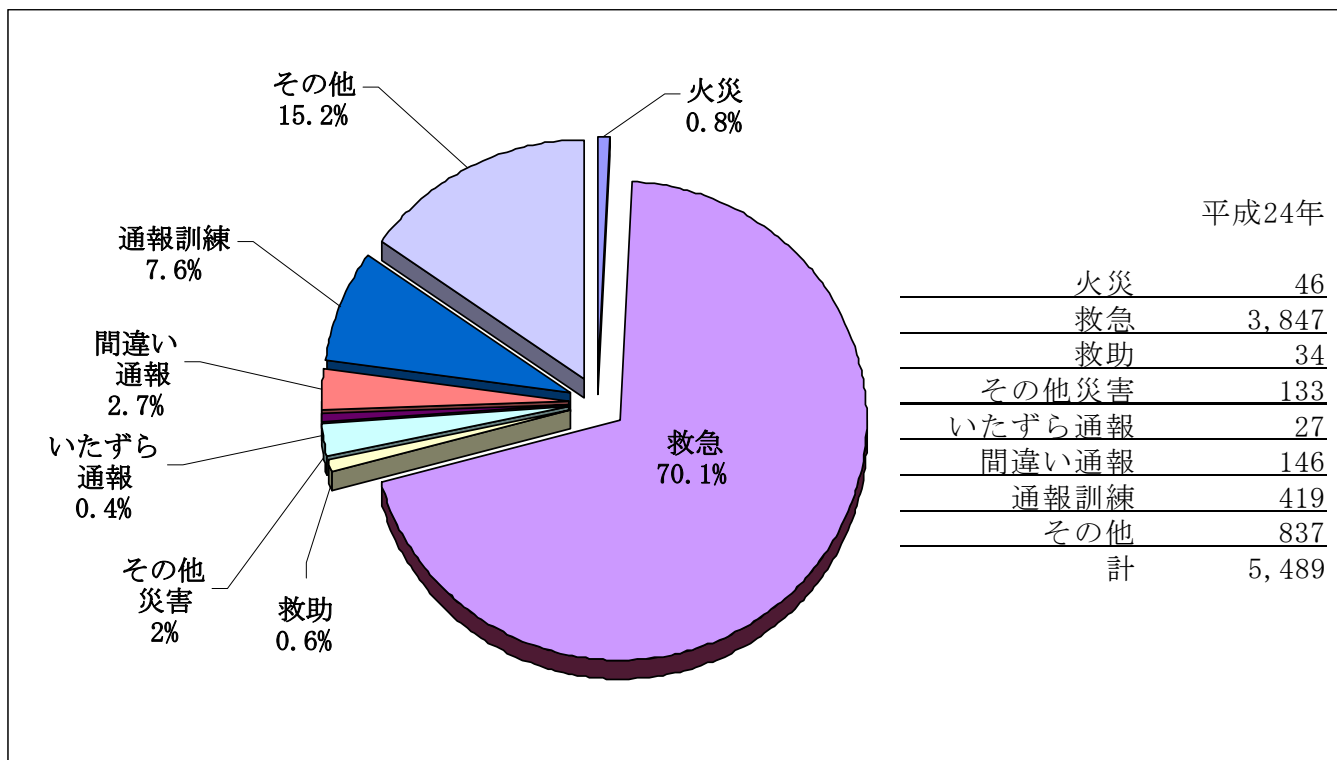
() 内 全国共通波整備数

島田市消防本部119番通報受信状況

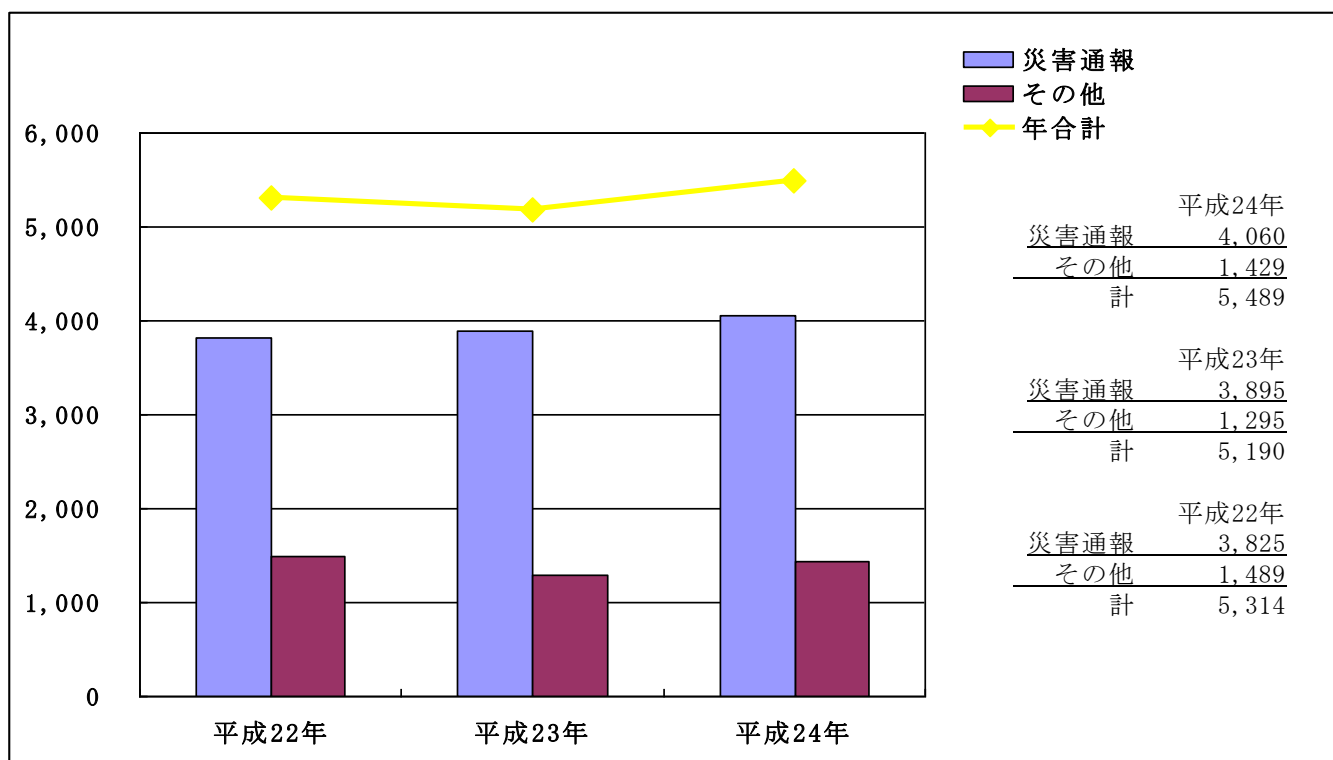
平成24年1月1日～平成24年12月31日

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	災害通報総件数
火災	NTT回線	5	2	2	1	2	1	0	0	0	1	1	1	46
	IP電話	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	携帯電話	4	0	2	0	0	1	3	0	1	1	0	1	
	その他	0	0	1	0	4	4	1	1	0	2	1	2	
	計	10	2	5	1	6	6	4	1	1	4	2	4	
救急	NTT回線	246	197	208	187	142	143	183	208	159	180	178	204	3847
	IP電話	62	79	52	63	52	51	37	54	55	49	62	76	
	携帯電話	49	55	51	52	60	55	61	52	62	58	73	56	
	その他	19	17	14	22	19	18	19	31	13	17	25	22	
	計	376	348	325	324	273	267	300	345	289	304	338	358	
救助	NTT回線	1	1	0	2	1	2	1	1	1	0	1	0	34
	IP電話	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	携帯電話	5	2	0	1	0	1	0	2	1	3	1	1	
	その他	1	0	0	1	1	0	0	0	1	1	0	1	
	計	7	3	0	4	2	3	1	3	3	4	2	2	
その他 災害	NTT回線	4	2	3	0	0	0	3	2	2	2	0	0	133
	IP電話	0	1	0	0	0	1	0	1	0	1	0	1	
	携帯電話	1	0	1	2	0	2	0	1	1	3	2	1	
	その他	5	1	11	14	13	12	6	8	8	8	6	4	
	計	10	4	15	16	13	15	9	12	11	14	8	6	
いたずら 通報	NTT回線	1	1	0	0	0	3	0	0	2	2	1	3	27
	IP電話	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
	携帯電話	0	3	0	1	0	0	0	1	1	2	0	3	
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	計	1	5	1	2	0	3	0	1	3	4	1	6	
間違い 通報	NTT回線	5	8	9	7	4	6	2	9	8	5	4	12	146
	IP電話	1	3	3	2	1	2	0	2	2	1	0	0	
	携帯電話	3	2	1	4	5	4	8	4	5	6	4	4	
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	計	9	13	13	13	10	12	10	15	15	12	8	16	
通報訓練	NTT回線	11	20	32	17	17	24	19	28	67	21	37	49	419
	IP電話	0	1	3	2	1	5	1	1	8	5	12	4	
	携帯電話	1	1	1	3	1	1	4	0	7	1	6	8	
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	計	12	22	36	22	19	30	24	29	82	27	55	61	
その他	NTT回線	45	39	37	82	29	29	35	34	32	29	69	30	837
	IP電話	8	10	6	0	4	4	8	4	8	7	8	12	
	携帯電話	27	11	15	26	27	27	17	27	26	20	24	20	
	その他	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	計	80	60	59	108	60	60	60	65	66	56	101	62	
合計		505	457	454	490	383	396	408	471	470	425	515	515	5489

119 番等通報受信状況



119 番等通報受信状況の推移



救助・救急

救助活動状況

平成24年1月1日～平成24年12月31日

種別		区分		活動件数	活動人員	救助人員
		出動件数	出動人員			
火災	建物	10	205	9	69	1
	建物以外					
交通事故		23	319	18	194	25
水難事故		2	27	2	27	1
自然災害		1	21	1	21	2
機械による事故		2	31	1	10	1
建物による事故						
ガス及び酸欠事故						
爆発事故						
その他の事故		14	164	13	132	13
計		52	767	44	453	43
前年		53	697	46	524	45

※ その他の事故とは、山岳事故、高所からの転落事故等をいう。

救助隊員の訓練実施状況

平成24年1月1日～平成24年12月31日

種別		区分		備考
		実施回数	実施延人員	
体力練成		150	750	基礎体力
救助基本訓練及び応用訓練		75	375	各種ロープワーク等
検索・救助訓練		55	275	救助操法による訓練
救助資器材取扱訓練		105	525	現有救助資器材
救助事象想定訓練		72	360	山岳・水難各種訓練
その他の訓練		51	510	救助大会の特別訓練含む
計		508	2795	716

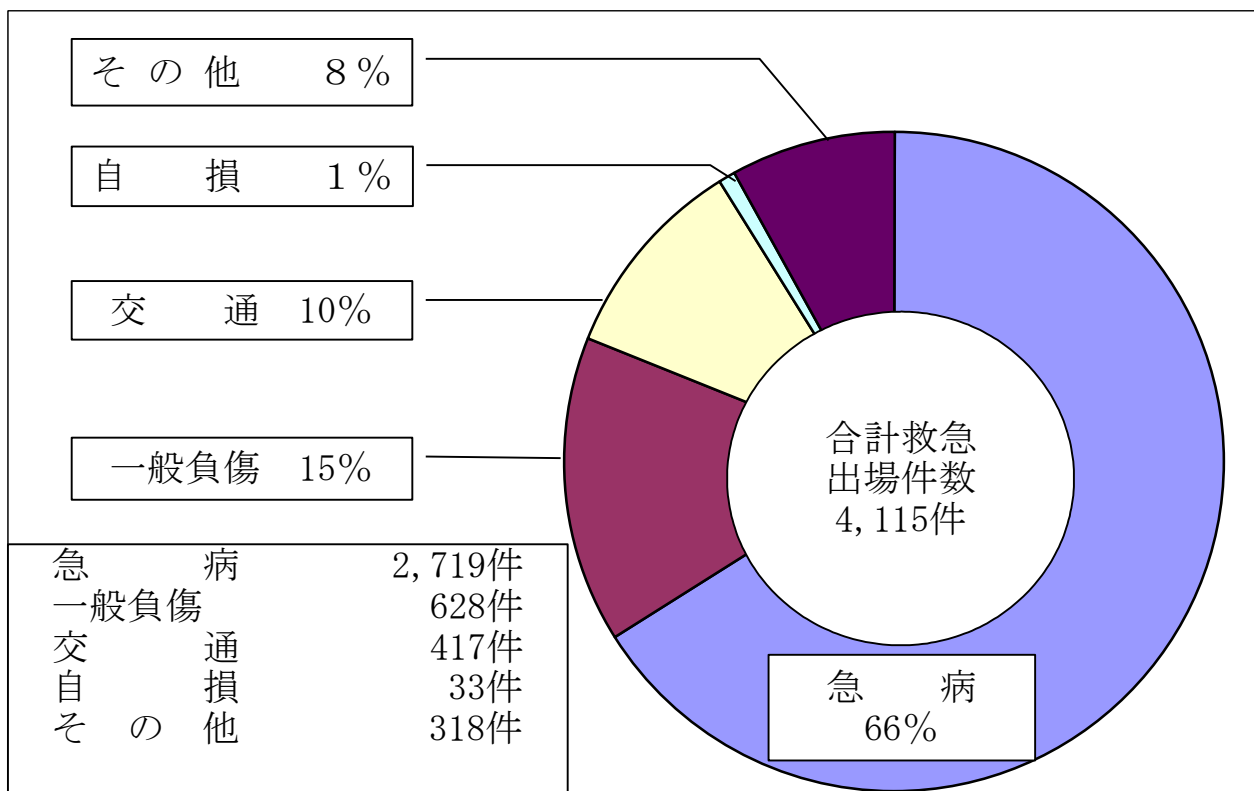
最近5年間の救急概況

平成20年～平成24年

年別	出 場			取 扱			搬 送			1日あたり		
	合計数	島田市	川根本町	合計数	島田市	川根本町	合計数	島田市	川根本町	出場件数	取扱件数	搬送人員
24	4,115	3,727	388	3,723	3,371	352	3,768	3,414	354	11.3	10.2	10.3
23	3,999	3,649	350	3,610	3,295	315	3,651	3,336	315	11.0	9.9	10.0
22	3,972	3,622	350	3,542	3,240	302	3,596	3,285	311	10.9	9.7	9.9
21	3,910	3,556	354	3,413	3,099	314	3,476	3,153	323	10.7	9.4	9.5
20	3,954	3,612	342	3,550	3,232	318	3,601	3,278	323	10.8	9.7	9.9

救急出場種別件数

平成24年1月1日～平成24年12月31日



時間別救急発生状況

平成24年1月1日～平成24年12月31日 (単位: 件)

区分 時間別	合計	救急事故種別										
		火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他
0:00～1:59	173	2			5	3		18	3	1	140	1
2:00～3:59	124	1			4	1		11			107	
4:00～5:59	161	1			8	1		17	1	4	128	1
6:00～7:59	322				54	1		49	1	2	211	4
8:00～9:59	504				50	9	4	87	1	1	316	36
10:00～11:59	493				44	8	6	73	1	2	311	48
12:00～13:59	457				55	10	8	80	3	7	258	36
14:00～15:59	427	1	1	1	61	9	7	72		4	241	30
16:00～17:59	454	1			67	3	4	76		3	262	38
18:00～19:59	448				40	1	3	64	1	5	323	11
20:00～21:59	327		1		17	1	5	42	1	2	255	3
22:00～23:59	225		1		12		1	39		2	167	3
合計	4,115	6	3	1	417	47	38	628	12	33	2,719	211

曜 日 ・ 月 別 救 急 出 場 件 数

平成24年1月1日～平成24年12月31日 (単位:件)

区分		事故種別	火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他				計
													転搬院送	医搬師送	資等機材送	その他	
曜日別	月		1			73	10	5	85	1	5	416	43				639
	火		1	1		61	3	2	70	1	5	377	37			2	560
	水					60	7	4	92	2	5	375	23	1			569
	木					59	8	4	88	2	3	350	30	1		1	546
	金		2	2	1	64	11	7	89	2	8	391	37				614
	土		2			53	4	4	92	3	5	377	21			3	564
	日					47	4	12	112	1	2	433	10			2	623
計			6	3	1	417	47	38	628	12	33	2,719	201	2	0	8	4,115
月別	1月					38	4	1	51	1	7	302	15			1	420
	2月			2		23	3	1	50	1		275	11				366
	3月		4			24	2	5	47		4	239	23			1	349
	4月					39	5	5	56	2	2	233	10	1			353
	5月			1		34	1	9	52	1		171	20			1	290
	6月					18	5	3	50	1	3	192	16			1	289
	7月					45	6		40	1	1	212	17			1	323
	8月					37	5	2	77		8	224	12				365
	9月					38	4	4	41	3	2	189	23			1	305
	10月				1	38	6	5	49	1	2	201	20				323
	11月		2			46	3	2	63	1	3	213	19	1			353
	12月					37	3	1	52		1	268	15			2	379

発 生 場 所 別 搬 送 人 員

平成24年1月1日～平成24年12月31日

発生場所 区 分	住 宅	公衆出入 場 所	仕 事 場	道 路	そ の 他	計	比率
急 病	1,950	357	65	51	23	2,446	64.9%
交 通	4	3	2	410	3	422	11.2%
一 般 負 傷	355	101	10	67	51	584	15.5%
そ の 他	32	218	38	4	24	316	8.4%
計	2,341	679	115	532	101	3,768	100.0%

※ 区分のその他とは、火災・自然災害・水難・労働災害・運動競技・加害・自損行為等の搬送人員を表す。

管 内 ・ 管 外 別 搬 送 人 員

平成24年1月1日～平成24年12月31日

事故種別 区 分	急 病	交 通	一般負傷	そ の 他	計	比率
管 内 在 住 者	2,273	272	525	262	3,332	88.4%
管 外 在 住 者	169	149	59	54	431	11.5%
上 記 以 外 の 者	4	1			5	0.1%
計	2,446	422	584	316	3,768	100.0%

応 急 手 当 普 及 啓 発 活 動

平成24年1月1日～平成24年12月31日

種別	内 容	実施回数	受講人数
一般講習	受講者の希望による講習内容	13	353
普通救命講習Ⅰ (3時間)	心肺蘇生法(成人等)、大出血時の止血法	32	564
普通救命講習Ⅱ (4時間)	心肺蘇生法(成人等)、大出血時の止血法、実技・筆記試験 受講対象者：業務内容、活動領域の性格から一定の頻度で心肺停止者に接する機会の高い者	9	167
上級救命講習 (8時間)	心肺蘇生法(成人・小児・乳児・新生児)、大出血時の止血法、傷病者管理法、外傷の手当て、搬送法	2	28
普及員講習 (24時間)	基礎的な知識技能、指導要領、効果測定、指導内容に関する質疑への対応	2	13
指導員講習 (16時間)	応急手当普及員の資格を有する者に対し指導要領を実施	0	0
合 計		58	1,125

救急隊員が行った応急処置件数

平成24年1月1日～平成24年12月31日

事故種別 応急処置	急病	交通	一般負傷	その他	計
止血	24	75	156	42	297
固定	33	370	211	53	667
人工呼吸	63	1	4	7	75
心肺蘇生	111	4	15	7	137
酸素吸入	587	73	43	86	789
気道確保	127	2	15	6	150
保温	896	96	179	86	1,257
血圧測定	2,323	408	553	300	3,584
聴診器による心音、 呼吸音の聴取	1,260	196	208	132	1,796
血中酸素飽和度の測定	2,333	409	551	305	3,598
心電図	2,026	163	255	179	2,623
その他	2,322	401	556	299	3,578
事故種別 特定救命行為	急病	交通	一般負傷	その他	計
除細動	13			1	14
器具を用いた気道確保	67		6	3	76
静脈路確保	57	1	9	10	77
薬剤投与	21		6	2	29

新東名高速道路における出場種別件数



平成24年4月14日（開通日）～平成24年12月31日

火災	救助	救急		消防活動 (救急支援)
		交通	急病	
2	2	9	6	9

消防団

消防団の沿革

年 月	沿 革 事 項
島 田 市	
平成 20 年 4 月	旧島田市消防団と旧川根町消防団が統合し、島田市消防団を結団する。組織機構 4 方面隊 16 個分団 39 部制で編成、定員 955 人とする。
平成 20 年 9 月	4 分団（岸町、東町）志太支部消防操法大会消防ポンプ車の部で優勝する。
平成 21 年 2 月	4 分団 2 部（東町）消防ポンプ自動車（CD1）を購入する。
	12 分団 3 部（高熊）消防ポンプ自動車（CD1）を購入する。
12 月	8 分団 1 部（稻荷四丁目）消防ポンプ自動車車庫及び団員詰所を新築する。
平成 22 年 3 月	14 分団 3 部（塩本）消防ポンプ自動車（CD1）を購入する。
5 月	11 分団 2 部（番生寺）消防ポンプ自動車（CD1）を購入する。
	2 分団 2 部（御仮屋）消防ポンプ自動車（CD1）を購入する。
平成 23 年 2 月	9 分団 1 部（菊川）消防ポンプ自動車（CD1）を購入する。
10 月	女性消防隊が第 20 回全国女性消防操法大会（横浜市）へ出場する。
12 月	2 分団 1 部（南町）消防ポンプ自動車車庫及び団員詰所を新築する。
	14 分団 2 部（越地）消防ポンプ自動車（CD1）を購入する。
	15 分団 3 部（石風呂）消防ポンプ自動車（CD1）を購入する。
平成 25 年 2 月	1 分団 2 部（若松町）消防ポンプ自動車（CD1）を購入する。
	11 分団 3 部（大代）消防ポンプ自動車（CD1）を購入する。
(旧 島 田 市 ※ 平成 17 年 5 月 5 日～平成 20 年 3 月 31 日)	
平成 17 年 5 月	旧島田市消防団と旧金谷町消防団が統合し、島田市消防団を結団する。組織機構 15 個分団 30 部制で編成、定員 700 人とする。
平成 18 年 3 月	8 分団 1 部（旧初下）消防ポンプ自動車（CD1）を購入する。
	10 分団 2 部（本町）消防ポンプ自動車（CD1）を購入する。
11 月	10 分団志太支部消防操法大会消防ポンプ車の部で優勝する。
平成 19 年 8 月	10 分団静岡県操法大会消防ポンプ車の部に出場する。
平成 20 年 1 月	6 分団 2 部（神座）消防ポンプ自動車（CD1）を購入する。
	11 分団 2 部（金谷東町）消防ポンプ自動車（CD1）を購入する。
2 月	14 分団（大代）消防ポンプ自動車車庫及び団員詰所を新築移転する。
(旧 島 田 市 ※ 文久年間～平成 17 年 5 月 4 日)	
文 久 年 間	大工、左官、鳶職中に篤志者をもって、職工火消組を置く。
明治 5 年	消升組火消組織され、職工火消組に代わらしむ。
明治 21 年 11 月	消升組解散により手押しポンプ、雲龍水を器具とする組員 200 人からなる 4 組制による島田消防組が創設される。
明治 23 年 10 月	私設島田町消防組 2 番組で初めてドイツ製模倣のドイツ型 1 号手押しポンプを購入する。
明治 27 年 2 月	勅令第 15 号消防組規則発布により私設消防に代わり公設消防 4 部制を敷き 1 部 60 人をもって発足する。
明治 28 年 11 月	公設六合消防組が結成される。
明治 38 年 1 月	公設島田町消防組 52 部制となる。
明治 40 年 12 月	島田町消防組現場功勞により県から金馬簾第 1 号を授与される。
明治 42 年 2 月	島田町消防組初めて蒸気ポンプを購入し、6 部制とする。
大正 2 年 11 月	島田町消防組 2 台目の蒸気ポンプを購入し、7 部制とする。

大正 10 年 4 月	島田町消防組組織機構改革 8 部制 360 人とし、私設初倉村消防組を結成する。
大正 11 年 2 月	私設中溝消防組結成される。
大正 11 年 11 月	島田町消防組組織を変更し、6 部制 265 人とし、12 月に初めてガソリンポンプ 1 台を購入する。
12 月	私設大長村消防組結成、六合村少年消防隊が発足する。
大正 15 年 2 月	横井施設消防組を創設する。
昭和 元年 9 月	大津村青年消防隊を結成、警備隊とも称した。
昭和 2 年 6 月	同上消防隊解散、私設大津村消防組合結成される。
昭和 3 年 1 月	私設大津、大長村消防組織解散、公設として発足する。
12 月	向島青年義勇消防隊結成される。
昭和 10 年 4 月	島田町消防会館建設、町内各戸火の用心旗を備える。
昭和 12 年 1 月	初倉村消防組公設となる。
12 月	消防組は警防団に変更、島田町では私設を統合、8 部制とした総員 250 人とする。
昭和 21 年 9 月	初倉村消防団で搭載用ポンプ 1 台を購入する。
12 月	従来の警防団は消防団に改革される。
昭和 30 年 1 月	島田市消防団は隣接 4 か村（六合、大津、大長、伊久美）の合併にともない、19 分団制とする。
昭和 36 年 6 月	初倉村の合併にともない、島田市消防団は 23 分団制とする。
昭和 44 年 10 月	消防団の定数は 760 人を 650 人と変更する。
昭和 47 年 4 月	島田市消防団は 23 個分団を統合改革し、9 個分団 23 部制に編成する。
昭和 51 年 3 月	消防庁長官表彰旗を受賞する。
昭和 52 年 4 月	島田市消防団は 9 個分団 23 部制（524 人）を、8 個分団 17 部制（419 人）に編成する。
昭和 54 年 3 月	島田市消防団整備統合計画の推進にともない、消防ポンプ自動車車庫及び団員詰所を、3 分団 1 部は稲荷町へ、2 分団 1 部は南町へ、それぞれ新築移転する。
昭和 55 年 2 月	島田市消防団整備統合計画の推進にともない、3 分団 2 部の消防ポンプ自動車車庫及び団員詰所を、向谷元町へ新築移転する。
昭和 56 年 3 月	島田市消防団整備統合計画の推進にともない、4 分団 1 部の消防ポンプ自動車車庫及び団員詰所を、岸町へ新築移転する。
昭和 57 年 3 月	フィリピン共和国へ、普通ポンプ自動車 1 台を寄贈する。
昭和 59 年 1 月	島田市消防団整備統合計画の推進にともない、8 分団 1 部の消防ポンプ自動車車庫及び団員詰所を、旧初下へ新築移転する。
3 月	1 分団 2 部（若松町）消防ポンプ自動車車庫（火の見櫓）及び団員詰所を新築移転する。
12 月	6 分団 2 部（神座）消防ポンプ自動車車庫及び団員詰所を新築する。
昭和 60 年 3 月	日本消防協会より、頭綬を受賞する。
12 月	5 分団 1 部（上野田）消防ポンプ自動車車庫及び団員詰所を新築移転する。
昭和 62 年 3 月	8 分団 3 部（湯日）消防ポンプ自動車車庫及び団員詰所を新築する。
昭和 63 年 2 月	6 分団 1 部（相賀）消防ポンプ自動車車庫及び団員詰所を新築する。
12 月	4 分団 2 部（東町）消防ポンプ自動車車庫及び団員詰所を新築する。
平成 2 年 2 月	日本消防協会より表彰旗を受賞する。
3 月	5 分団 2 部（落合）消防ポンプ自動車車庫及び団員詰所を新築移転する。
平成 4 年 3 月	7 分団 1 部（川口）消防ポンプ自動車車庫及び団員詰所を新築移転する。
12 月	4 分団 1 部（岸町）消防ポンプ自動車車庫及び団員詰所を新築移転する。

平成 7年 3月	8分団 2部 (井口) 消防ポンプ自動車車庫及び団員詰所を新築移転する。
平成 8年 3月	2分団 2部 (御仮屋町) 消防ポンプ自動車車庫及び団員詰所を新築する。
平成 9年 3月	7分団 1部 (川口) 消防ポンプ自動車 (CD1) を購入する。
平成 10年 3月	8分団 2部 (井口) 消防ポンプ自動車 (CD1) を購入する。
平成 11年 3月	4分団 1部 (岸町) 消防ポンプ自動車 (CD1) を購入する。
平成 12年 3月	2分団 1部 (南町) 消防ポンプ自動車 (CD1) を購入する。
平成 13年 3月	5分団 2部 (落合) 消防ポンプ自動車 (CD1) を購入する。
平成 14年 3月	8分団 3部 (湯日) 消防ポンプ自動車 (CD1) を購入する。
平成 15年 3月	3分団 1部 (稲荷) 消防ポンプ自動車 (CD1) を購入する。
平成 16年 3月	5分団 1部 (上野田) 消防ポンプ自動車 (CD1) を購入する。
平成 17年 2月	1分団 1部 (本通一丁目) 消防ポンプ自動車 (CD1) を購入する。
	7分団 2部 (小川) 消防ポンプ自動車 (CD1) を購入する。
	3分団 2部 (向谷) 消防ポンプ自動車 (CD1) を購入する。
(旧 金 谷 町 ※ 昭和32年12月～平成17年5月4日)	
昭和 32年 12月	結団式を挙げる。
昭和 33年 7月	静岡県消防操法大会ポンプ車操法の部出場、第2位となる。
昭和 36年 2月	日本消防協会表彰旗を授与される。
昭和 40年 4月	金谷町役場職員による常備分団を開設する。
昭和 43年 3月	消防庁長官竿頭綬を授与される。
昭和 48年 4月	島田市金谷町消防組合島田消防署金谷分遣所開庁により常備分団解散する。
昭和 50年 1月	県表彰旗を受賞する。
昭和 52年 3月	静岡県消防協会榛原支部査閲大会で金谷町消防団は小型ポンプ操法の部で優勝する。 金谷町消防団は13個分団を統合改革し、7個分団に編成する。
昭和 53年 2月	静岡県消防協会榛原支部消防操法大会訓練礼式の部で3位となる。
昭和 54年 3月	静岡県消防協会榛原支部査閲大会で金谷町消防団は小型ポンプ操法の部で優勝、大型ポンプ車操法で準優勝する。
8月	第1分団、静岡県消防協会査閲大会 (小型ポンプ操法) へ出場する。
昭和 56年 12月	第1分団車庫を竣工する。(1号車庫、2号車庫を統合し、松島に建設)
昭和 57年 2月	第3分団 (東町) 車庫改築し竣工する。
昭和 58年 3月	静岡県消防協会榛原支部査閲大会で第2分団が訓練礼式の部で準優勝する。
昭和 59年 3月	静岡県消防協会榛原支部査閲大会で第3分団がポンプ操法の部で準優勝、第1分団は訓練礼式の部で第3位に入賞する。
昭和 60年 3月	第4分団 (番生寺) 2号車庫を移転し新築竣工する。
昭和 61年 2月	静岡県消防協会榛原支部査閲大会で第6分団が訓練礼式の部で優勝する。
10月	第2分団消防自動車 (CD1) を購入する。
昭和 63年 2月	静岡県消防協会榛原支部査閲大会で第6分団が小型ポンプ操法の部で優勝する。
6月	第2分団消防自動車 (小型動力ポンプ付積載車) を購入する。
7月	第2分団 (田町) 2号車庫を竣工する。(1号車、街路整備に伴い移設)
平成 2年 5月	第3分団2号車消防ポンプ自動車 (CD1) を購入する。
平成 3年 3月	第2分団 (本町) 1号車庫を竣工する。
7月	第7分団へ消防ポンプ自動車を配備する。
平成 4年 1月	第2分団 (本町) 詰所及び第5分団 (牛尾) 車庫詰所を建築する。

2月	日本消防協会竿頭授受章する。
3月	消防庁長官表彰旗受章する。
平成 4年 8月	第4分団消防ポンプ自動車を購入する。
12月	第4分団（島）車庫詰所を建築する。
平成 5年 12月	第5分団（横岡）車庫詰所・第7分団（北五和）車庫詰所を建築する。
平成 6年 2月	第1分団（松島）消防ポンプ自動車（CD1）を購入する。
6月	第6分団消防ポンプ自動車（CD1）を購入する。
12月	第3分団（宮崎町）車庫・詰所を改築する。
平成 7年 9月	第5分団（竹下）消防ポンプ自動車（CD1）を購入する。
平成 8年 10月	第3分団（宮崎町）消防ポンプ自動車（CD1）を購入する。
12月	第1分団（菊川）1号車庫詰所を改築する。
平成 9年 11月	第5分団（牛尾）小型動力ポンプ積載車を購入する。
平成 10年 9月	第4分団（島）小型動力ポンプ積載車を購入する。
平成 11年 10月	第5分団（横岡）消防ポンプ自動車（CD1）を購入する。
平成 14年 2月	第1分団（猪土居）2号車庫詰所を移転改築及び消防ポンプ自動車（CD1）購入する。
11月	静岡県消防協会榛原支部査閲大会で、第4分団がポンプ車操法の部で3位入賞、第6分団・第7分団が訓練礼式の部で3位に入賞する。
平成 15年 2月	第2分団（田町）1号車小型動力ポンプ積載車を購入する。

(旧 川 根 町 ※ 昭和31年4月～平成20年3月31日)

昭和 31年 4月	川根町消防団を発足する。
昭和 32年 10月	6分団1班消防ポンプ置場を新築する。
11月	6分団2班消防ポンプ置場を新築する。
昭和 34年 10月	1分団夜警詰所を新築する。
昭和 35年 9月	4分団3班消防ポンプ置場を新築する。
12月	5分団2班消防ポンプ置場を新築する。
昭和 36年 6月	1分団1班消防ポンプ置場を新築する。
11月	4分団2班消防ポンプ置場を新築する。
昭和 37年 4月	4分団1班消防ポンプ置場を新築する。
9月	2分団消防ポンプ置場を新築する。
昭和 39年 10月	3分団夜警詰所新築する。
昭和 40年 10月	1分団3班消防ポンプ置場を新築する。
昭和 43年 11月	1分団5班消防ポンプ置場を新築する。
12月	6分団3班夜警詰所新築する。
昭和 44年 7月	5分団1班消防ポンプ置場を新築する。
昭和 45年 10月	3分団消防ポンプ置場を新築する。
昭和 47年 1月	1分団2班消防ポンプ置場を新築する。
8月	2分団1班消防ポンプ自動車を購入する。
昭和 48年 8月	6分団3班小型ポンプ積載車を購入する。
10月	1分団4班消防ポンプ置場を新築する。6分団3班消防ポンプ置場を改築する。
昭和 50年 8月	5分団2班消防ポンプ自動車を購入する。
10月	4分団3班消防ポンプ置場を改築する。
昭和 52年 8月	1分団4班消防ポンプ自動車を購入する。4分団2班小型動力ポンプを購入する。

昭和 53 年 6 月	5 分団 1 班小型ポンプ積載車を購入する。
7 月	2 分団小型動力ポンプを購入する。3 分団 2 班小型動力ポンプを購入する。
昭和 54 年 8 月	訓練礼式県大会に出場する。
9 月	4 分団 4 班小型動力ポンプを購入する。
10 月	2 分団 2 班消防ポンプ置場を改築する。
11 月	1 分団 1 班消防ポンプ自動車を購入する。
昭和 54 年 12 月	2 分団 2 班小型ポンプ積載車を購入する。
昭和 55 年 7 月	1 分団夜警詰所を改築する。5 分団 2 班消防ポンプ置場を改築する。
12 月	6 分団 2 班小型動力ポンプを購入する。
昭和 56 年 2 月	3 分団 1 班消防ポンプ自動車を購入する。
9 月	4 分団 4 班消防ポンプ置場を改築する。
昭和 57 年 5 月	3 分団 2 班、4 分団 4 班小型ポンプ積載車を購入する。6 分団 1 班消防ポンプ自動車を購入する。
7 月	4 分団 3 班、5 分団 1 班小型動力ポンプを購入する。
8 月	6 分団 2 班、4 分団 3 班小型ポンプ積載車を購入する。
昭和 58 年 8 月	1 分団 2 班消防ポンプ自動車を購入する。
9 月	4 分団 1 班消防ポンプ自動車を購入する。
12 月	1 分団 5 班、6 分団 3 班小型動力ポンプを購入する。
昭和 59 年 10 月	1 分団 5 班消防ポンプ置場を改築する。
11 月	4 分団 2 班消防ポンプ置場を改築する。
昭和 60 年 11 月	5 分団 1 班小型ポンプ積載車を購入する。
12 月	1 分団 3 班消防ポンプ自動車を購入する。
昭和 61 年 3 月	3 分団コミュニティー防災センターを新築する。
11 月	竿頭綬の授与を受ける。
昭和 62 年 10 月	2 分団 1 班消防ポンプ自動車を購入する。
11 月	4 分団 2 班小型動力ポンプを購入する。
12 月	6 分団 3 班小型ポンプ積載車を購入する。
昭和 63 年 8 月	4 分団 1 班コミュニティー防災センターを新築する。6 分団 2 班多目的防災センターを新築する。
11 月	訓練礼式県大会に出場する。
平成 元年 9 月	2 分団 1 班消防団拠点施設を新築する。
11 月	4 分団 3 班消防団車庫を改築する。
平成 2 年 2 月	1 分団 1 班消防ポンプ置場・研修所を新築する。2 分団 2 班、5 分団 2 班小型動力ポンプ積載車を購入する。
11 月	1 分団 3 班消防ポンプ置場・研修所を新築する。
12 月	6 分団 1 班消防団車庫を新築する。
平成 3 年 3 月	1 分団家山コミュニティー防災センターを新築する。
9 月	5 分団 2 班消防団拠点施設を新築する。
11 月	3 分団 2 班小型動力ポンプを購入する。
平成 5 年 1 月	1 分団 4 班消防ポンプ自動車を購入する。
2 月	6 分団 3 班消防団詰所を増改築する。
	1 分団 4 班消防ポンプ置場・研修所を新築する。

9月	1分団5班小型動力ポンプ付積載車の寄贈を受ける。
平成7年8月	2分団2班小型ポンプ操法県大会に出場する。
平成7年12月	1分団1班消防ポンプ自動車を更新する。
平成8年12月	3分団1班消防ポンプ自動車を更新する。6分団2班小型動力ポンプを更新する。
平成9年11月	6分団1班消防ポンプ自動車を更新する。
平成10年3月	3分団2班、4分団4班小型ポンプ積載車を更新する。
11月	1分団2班消防ポンプ自動車を更新する。
平成11年3月	4分団3班、6分団2班小型ポンプ積載車を更新する。
11月	4分団1班消防ポンプ自動車を更新する。
12月	1分団2班消防団詰所を改築する。
平成12年10月	団員条例定数の改正335人を295人とする。
平成14年4月	2分団1班消防ポンプ車を返納する。
平成15年4月	6分団3班小型ポンプ及び積載車を返納する。
平成17年3月	(財)日本損害保険協会より小型動力ポンプ付軽積載車の寄贈を受ける。
4月	消防団長に寺西智氏が就任し、実員254人の組織となる。
10月	1分団3班消防ポンプ自動車をCD-1に更新する。団員条例定数の改正295人を255人とする。
平成19年2月	2分団1班、4分団2班小型動力ポンプを更新する。
川 根 本 町	
平成18年4月	旧中川根町消防団と旧本川根町消防団が統合し、川根本町消防団を結団する。組織機構8個分団26部制で編成、定員460人とする。
平成20年4月	団員条例定数の改正460人を440人とする。
平成22年11月	第5分団1部、第8分団3部積載車を更新する。
平成23年8月	指令車を更新する。
平成24年3月	第6分団1部、第7分団3部積載車を更新する。
平成25年3月	第5分団2部消防ポンプ自動車を更新する。
(旧中川根町)	
昭和31年9月	旧志太郡徳山村、旧中川根村が合併し、町政施行(昭和37年4月)とともに中川根町消防団とし発足、その組織は本部、13個分団、団員535人で編成される。
昭和48年3月	静岡県消防協会榛原支部査閲大会訓練礼式の部で準優勝する。
昭和49年3月	静岡県消防協会榛原支部査閲大会訓練礼式の部で3位、ポンプ車操法の部で3位入賞する。静岡県消防協会榛原支部査閲大会訓練礼式の部で優勝する。実働人員減少等に併せて消防
昭和51年3月	団組織合理化を図り、定員363人とし本部以下14分団とし組織強化充実を図る。静岡県消防協会榛原支部査閲大会小型ポンプ操法の部で3位入賞する。
昭和56年3月	第4分団消防ポンプ自動車を配備する。
昭和58年11月	第6分団消防ポンプ自動車を配備する。
昭和59年11月	静岡県消防協会榛原支部査閲大会訓練礼式の部で3位入賞する。
昭和61年3月	静岡県消防協会榛原支部査閲大会ポンプ車操法の部で3位入賞する。
平成元年3月	第14分団消防ポンプ自動車を配備する。
12月	第1分団・第8分団、消防団活動拠点施設整備事業として、県の補助を受けて車庫詰所を
平成3年12月	建築する。 第1分団小型動力ポンプを配備する。

平成 4年 11月	第6分団消防ポンプ自動車を配備する。
平成 5年 11月	第7分団、消防団活動拠点施設整備事業として、県の補助を受けて車庫詰所を建築する。
12月	第8分団・第11分団小型動力ポンプを配備する。
平成 6年 11月	静岡県消防協会榛原支部査閲大会訓練礼式の部で優勝する。
平成 7年 2月	静岡県消防団員県査閲大会訓練礼式の部で3位入賞する。
8月	第12分団小型動力ポンプを配備する。
平成 8年 12月	静岡県消防協会榛原支部査閲大会訓練礼式の部で準優勝する。
平成 9年 2月	第4分団消防ポンプ自動車を更新する。
平成11年 1月	静岡県消防協会榛原支部査閲大会訓練礼式の部で準優勝する。
2月	第12分団消防団活動拠点施設を建設する。
3月	実働人員減少により、定員を296人とする。
4月	第10分団消防ポンプ自動車を更新する。
平成12年 3月	第2分団・第5分団・第9分団小型動力ポンプを配備（更新）する。
平成13年 3月	第7分団・第11分団小型動力ポンプを更新する。
11月	静岡県消防協会榛原支部査閲大会訓練礼式の部で準優勝する。
平成14年 11月	第3分団積載車及び小型動力ポンプを更新する。 静岡県消防協会榛原支部査閲大会訓練礼式の部で準優勝する。 第3分団積載車及び小型動力ポンプを更新する。

(旧本川根町)

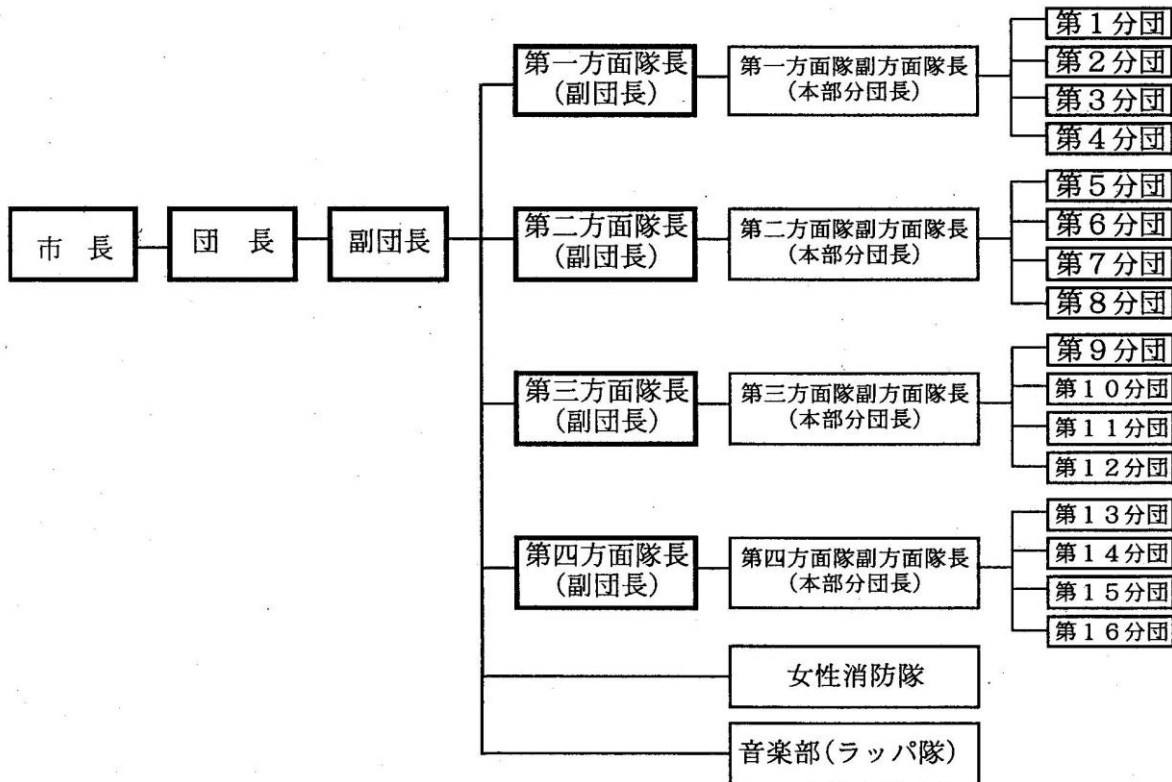
昭和31年 10月	町村合併により「本川根町消防団」誕生。本川根町消防団条例制定、分団数12分団、団員数535人とする。
昭和38年 7月	本川根町消防団条例改正、分団数12分団、団員数405人とする。
昭和44年	支部査閲大会訓練礼式で優勝する。
昭和45年	支部査閲大会訓練礼式で優勝する。
昭和46年	支部査閲大会訓練礼式で優勝する。
昭和47年	支部査閲大会訓練礼式で優勝する。
昭和48年 1月	本川根町消防団条例改正専任部長制度を施行する。
昭和49年 4月	本川根町消防団条例改正。分団数12分団、団員数390人とする。 支部査閲大会訓練礼式で優勝、ポンプ車操法で優勝する。
昭和50年	支部査閲大会訓練礼式で優勝する。
昭和58年 4月	本川根町消防団条例改正。分団数12分団、団員数375人とする。
平成 元年 4月	本川根町消防団条例改正。分団数12分団、団員数350人とする。 支部査閲大会小型ポンプ操法で優勝する。
平成 5年 4月	本川根町消防団条例改正。分団数12分団、団員数310人とする。
平成10年 4月	本川根町消防団条例改正。分団数12分団、団員数280人とする。
平成14年 8月	第2分団小型動力ポンプを更新する。
平成15年 1月	第3分団小型動力ポンプ積載車を更新する。
5月	第5分団小型動力ポンプを更新する。
8月	第11分団小型動力ポンプを更新する。
12月	第9分団小型動力ポンプ積載車を更新する。
平成16年 5月	第10分団小型動力ポンプを更新する。
8月	第7分団小型動力ポンプ積載車を更新する。

9月	防災倉庫兼消防本部水槽車格納庫を建築する。
----	-----------------------

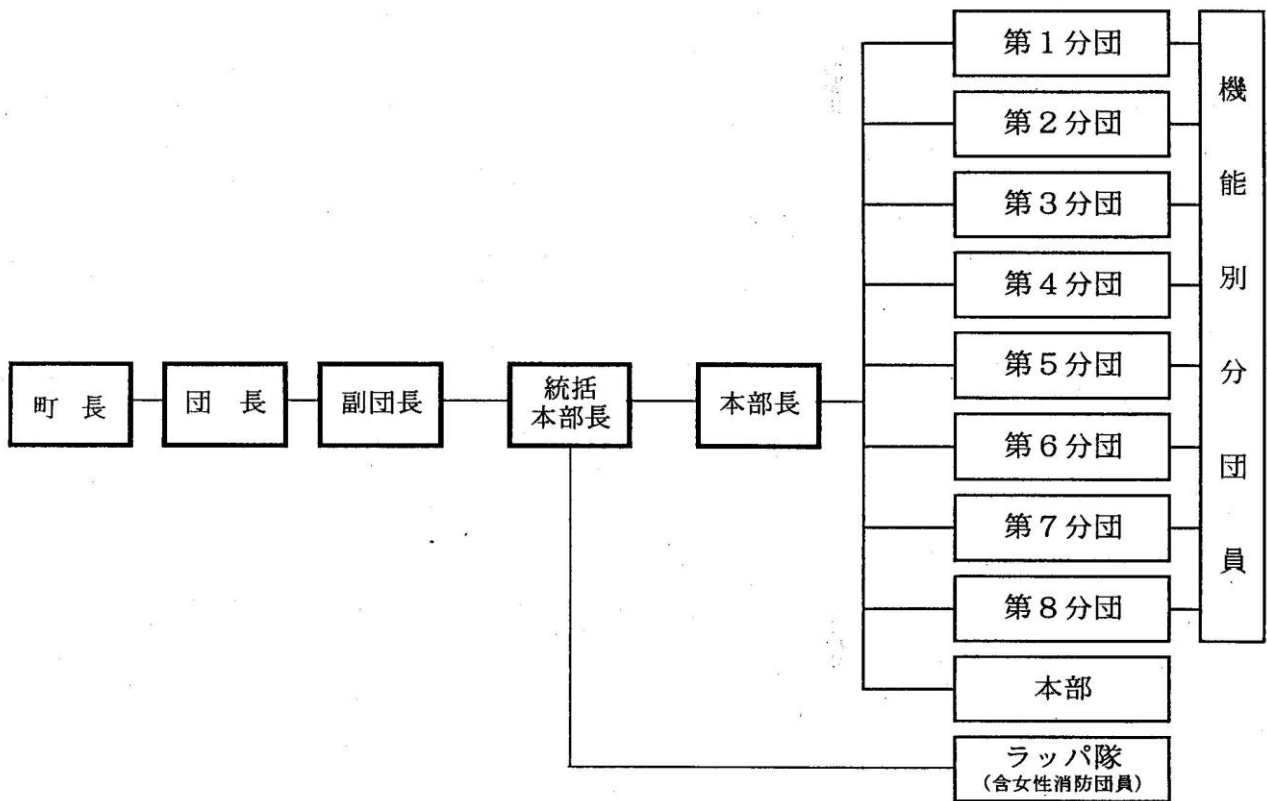
消防団組織機構

平成25年4月1日現在

島田市



川根本町



消防団員現勢

島 田 市

平成 25 年 4 月 1 日現在 (単位：人)

階級別 区分	総 数	団長	副団長 (方面隊長)	分団長 (本部)	分団長	副分団長	部長	班長	団員
定 員	955	1	5	16	16	16	39	156	706
実 員	869	1	5	16	16	16	39	156	620
団本部	37	1	5	16					15

川 根 本 町

平成 25 年 4 月 1 日現在 (単位：人)

階級別 区分	総数	団長	副団長	本部長	分団長	副分団長	部長	班長	団員
定 員	440	1	4	13	9	18	28	54	313
実 員	404	1	4	13	9	18	28	48	283
団本部	32	1	4	13	1		2	2	9

消防団員勤続年数

平成 25 年 4 月 1 日現在 (単位：人)

勤続年数 市・町	1年未満	1年以上 5年未満	5年以上 10年未満	10年以上 15年未満	15年以上 20年未満	20年以上 25年未満	25年以上	合計
	島 田 市	56	279	277	171	62	15	9
川根本町	13	64	93	90	84	41	19	404
計	69	343	370	261	146	56	28	1,273

消防団出動区域

島田市

平成25年4月1日現在

分団名	部	出 動 区 域
団本部		島田市全域
第1分団	1部	本通り1・2・3・4・5丁目、大井町、日之出町、栄町、扇町、元島田の一部、柳町、大川町、大津通、幸町、新町通、中河町、中央町
	2部	若松町、中溝町、宮川町
第2分団	1部	横井町、南町、旭町、宝来町
	2部	本通り6・7丁目、祇園町、新田町、高砂町、松葉町、元島田、御飯屋町、中河町の一部、元島田東町
第3分団	1部	旧初、沼伏、谷口上・下、大柳、色尾西・東
	2部	南原、井口、岡田、中河、月坂1・2丁目
	3部	吹木、本村、中講、原の平、下湯日
第4分団	1部	阿知ヶ谷、岸町、東光寺、道悦島（JR東海道線路北側）
	2部	東町、道悦島（JR東海道線路南側）、高島町
第5分団	1部	上野田、東野田、西野田、ばらの丘1丁目
	2部	落合、大草、尾川、千葉、ばらの丘2丁目
第6分団	1部	相賀
	2部	神座、鵜網
第7分団	1部	川口、長島、鍋島、丹原
	2部	西向、太平、大森、白井、二俣、中平、小川、犬間
第8分団	1部	向島町、河原町、稻荷町
	2部	向谷1・2・3・4丁目、向谷元町、三ッ合町、伊太
第9分団	1部	菊川、神谷城
	2部	金谷猪土居、金谷富士見町、切山
第10分団	1部	金谷城山町、金谷坂町、金谷新町、金谷田町、金谷金山町、金谷南町、金谷緑町、金谷本町、金谷古横町、金谷都町、金谷天王町、金谷二軒家、金谷上十五軒、金谷下十五軒、金谷清水
	2部	金谷中町、金谷扇町、金谷宮崎町、金谷栄町、金谷根岸町、金谷代官町
	3部	金谷泉町、金谷東1丁目・2丁目
第11分団	1部	島
	2部	番生寺、志戸呂上、下、谷北団地
	3部	大代
第12分団	1部	竹下、牛尾下
	2部	横岡、牛尾上
	3部	北五和（福用、高熊、神尾）
第13分団	1部	東部、大和田、前山
	2部	北部、中部
第14分団	1部	西向
	2部	越地
	3部	塩本、峰、倉平、湯島、市尾、雲見
第15分団	1・2部	抜里
	3部	石風呂、葛籠
第16分団	1部	堀之内、北、笹間渡、村上
	2部	上河内、一色、渡島、久奈平、原、八坂
	3部	出本、石上、竹島、三並、高日向、日向、桑ノ山、丸山、二俣、日掛、栗原

分団名	部	出 動 区 域
団本部		川根本町全域
第1分団	1部	接岨
	2部	大間
	3部	奥泉、太谷
第2分団	1部	沢間、桑野山
	2部	千頭東、千頭西、寺馬
第3分団	1部	小長井、平栗
	2部	上岸、前山
	3部	洗富、小幡
第4分団	1部	坂京
	2部	田代、柳三
	3部	崎平
	4部	青部
第5分団	1部	元藤川
	2部	徳山
第6分団	1部	水川
	2部	上長尾
	3部	高郷、八中
	4部	田野口
第7分団	1部	梅高
	2部	下長尾
	3部	瀬平
	4部	久保尾
第8分団	1部	久野脇
	2部	地名
	3部	下泉
	4部	老町河内

消防団車両配置状況

島 田 市

平成25年4月1日現在

分団名	種 別	車両数	年 式
団本部	指令車	2台	平成18年、平成21年
	運搬車	1台	平成15年
第1分団	消防ポンプ自動車	2台	平成5年、平成15年
第2分団	消防ポンプ自動車	2台	平成10年、平成23年
第3分団	消防ポンプ自動車	3台	平成8年、平成12年、平成18年
第4分団	消防ポンプ自動車	2台	平成9年、平成21年
第5分団	消防ポンプ自動車	2台	平成11年、平成14年
第6分団	消防ポンプ自動車	2台	平成7年、平成20年
第7分団	消防ポンプ自動車	2台	平成8年、平成16年
第8分団	消防ポンプ自動車	2台	平成13年、平成17年
第9分団	消防ポンプ自動車	2台	平成14年、平成23年
第10分団	消防ポンプ自動車	3台	平成8年、平成18年、平成20年
第11分団	消防ポンプ自動車	2台	平成6年、平成22年
	可搬積載車	1台	平成10年
第12分団	消防ポンプ自動車	3台	平成7年、平成11年、平成21年
第13分団	完成車	2台	平成7年、平成10年
第14分団	消防ポンプ自動車	2台	平成22年、平成23年
	完成車	1台	平成17年
第15分団	消防ポンプ自動車	1台	平成23年
	完成車	1台	平成8年
	可搬積載車	1台	平成10年
第16分団	完成車	2台	平成9年、平成11年
	可搬積載車	3台	平成10年、平成11年、平成11年
	可搬付軽積載車	1台	平成17年
車両合計		45台	

- (注) 1 消防ポンプ自動車 消防ポンプを装備し、かつ可搬ポンプを積載した車両をいう。
 2 可搬積載車 可搬ポンプを積載した車両をいう。
 3 完成車 消防ポンプを装備し、可搬ポンプを積載していない車両をいう。
 4 可搬付積載車 可搬ポンプを積載しているが、同ポンプが車両に固定されている車両をいう。

分団名	種別	車両数	年式
団本部	指令車	1台	平成23年
	水槽車	1台	平成元年
第1分団	消防ポンプ自動車	2台	平成6年、平成10年
	可搬積載車(軽)	1台	平成10年
第2分団	消防ポンプ自動車	1台	平成17年
	可搬積載車	2台	平成4年、平成15年
第3分団	消防ポンプ自動車	1台	平成19年
	可搬積載車	2台	平成10年、平成16年
	可搬積載車(軽)	1台	平成6年
第4分団	消防ポンプ自動車	1台	平成4年
	可搬積載車	2台	平成15年、平成18年
	可搬積載車(軽)	1台	平成19年
第5分団	消防ポンプ自動車	1台	平成元年
	可搬積載車	1台	平成22年
第6分団	消防ポンプ自動車	1台	平成11年
	可搬積載車	3台	平成3年、平成15年、平成24年
第7分団	消防ポンプ自動車	1台	平成5年
	可搬積載車	3台	平成13年、平成17年、平成24年
第8分団	消防ポンプ自動車	1台	平成12年
	可搬積載車	3台	昭和63年、平成19年、平成22年
車両合計		30台	

- (注) 1 消防ポンプ自動車 消防ポンプを装備した車両をいう。
 2 可搬積載車 可搬ポンプを積載した車両をいう。

消 防 年 報
(平成 24 年版)

平成 25 年 6 月 1 日

編集：島田市消防本部警防課

発行：島田市消防本部

〒427 - 0048

静岡県島田市旗指 513 番地の 1

電話 0547(37)0119 (代)